

アジア経済と環境

担当教員 呉 錫畢

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

急速なアジアの経済成長は、同時に環境問題も急速に現れている。しかし、環境問題は一国だけの問題で留まることではない。この講義では、経済が急成長している東アジア、特に日本、韓国、中国、インド等を中心に、経済成長の背景を見た上で、どのような環境問題に直面しているのか。アジアの環境問題を、特に経済成長や産業構造の観点で、じっくり、考えながら、教科書のみならず、ビデオや写真を通して、経済と環境問題の相互関係を分かりやすく、解説する。しかし、一方的な講義形式ではなく、互いに論じ合う講義になる。

【授業の展開計画】

- 1週目：アジア的経済成長
- 2週目：アジア的環境問題
- 3週目：中国の社会変化と経済
- 4週目：中国のエネルギー状況
- 5週目：中国の経済成長と環境問題
- 6週目：日本の経済成長と産業公害
- 7週目：日本のエネルギーと経済
- 8週目：台湾の経済成長と環境問題
- 9週目：韓国の経済成長と環境問題
- 10週目：インドの経済と社会変化
- 11週目：インドのエネルギーと環境問題
- 12週目：国際エネルギー情勢の現状1
- 13週目：国際エネルギー情勢の現状2
- 14週目：持続的発展に関する世界サミット概観
- 15週目：地球温暖化とCOP3・COP15におけるアジア経済の観点
- 16週目：期末試験

【履修上の注意事項】

講義を聴いている人に迷惑をかけること。アジア的考えを少し持って欲しい。アジア的考えって何？。自ら考えてもらいたい。

【評価方法】

期末試験、レポート、特に出欠を大事にする。

【テキスト】

基本的には資料を配布する。そして、講義内容と関連する文献をそのつど紹介する。

【参考文献】

- ①井出亜夫編（2004）、『アジアのエネルギー・環境と経済発展』、慶応義塾大学出版社。
- ②『井上 真(編集)、『アジア環境白書』、東洋経済新報社。

エコビジネス論

担当教員 上江洲 薫、永田 伊津子、砂川 かおり

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、今後の成長が見込まれているエコビジネスの分類や市場動向、主要国での動向、課題、法規制、利害関係者などを概説するとともに、野外実習などにより実際の事業を見聞きして、エコビジネスの現状と課題を考察することを目的とする。

【授業の展開計画】

1. 講義説明、エコビジネスの意義と展開
2. エコビジネスの体系：位置づけ、成立要件、分類など
3. エコビジネスの市場動向：エネルギー、マテリアル、廃棄物など
4. エコビジネスの国際比較：ドイツ、米国、中国など
5. エコビジネスの今日的課題
6. 環境経営戦略
7. 環境マネジメントシステム
8. エコビジネスと法規制
9. ステークホルダーの連携：金融、大学、NP O・NGOなど
10. 中間試験
11. エコビジネスの取り組み事例①
12. エコビジネスの取り組み事例②
13. エコビジネスの取り組み事例③
14. 野外実習：エコビジネス企業の見学①
15. 野外実習：エコビジネス企業の見学②
16. まとめ

【履修上の注意事項】

途中退席や私語を繰り返す受講生は大きな減点とする。初回から出席を取る。

【評価方法】

成績評価は出席や試験、レポート提出等で総合的に判断する。

【テキスト】

特に指定はない。毎回レジユメを配布する。

【参考文献】

岸川善光 (2010) 『エコビジネス特論』学文社。エコビジネスネットワーク編 (2010) 『よくわかる環境ビジネス』産学社。

演習 I

担当教員 砂川 かおり

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

演習Iでは、地域、環境、経済等のテーマについて自らで問題を発見、理解し、解決する力を育てます。ゼミの活動を通して、文献調査、野外調査、レポート作成、論文発表等を行い、情報収集力、コミュニケーション力、分析力、洞察力、文章作成能力、表現力を身につけ、人間力の向上を目指します。

【授業の展開計画】

前期：

- 第1回 ガイダンス・大学で「学ぶ」とは
- 第2～5回 教員による講義・実習（環境調査、社会調査等）
- 第6回 受講生による演習Iのテーマの発表とグループ分け
- 第7～15回 グループごとにテーマを設定し、調査を行う。
- 第16回 中間報告会

後期

- 第17～24回 調査・論文作成
- 第25回 中間報告会
- 第26～30回 論文作成・添削
- 第31回 最終報告会

【履修上の注意事項】

野外実習は、土曜日に行われることもあります。

【評価方法】

2/3以上の出席、実習への参加、課題等の提出を単位取得の最低条件とする。

【テキスト】

特に指定なし。

【参考文献】

適宜紹介する。

演習 I

担当教員 名城 敏

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

演習 I

担当教員 永田（島袋） 伊津子

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ・金融論の入門書を講読し、基礎的な知識を定着させる。
- ・金融の面から地域経済・環境政策について理解を深める。

【授業の展開計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 金融に関する入門講座（1）
- 第3回 金融に関する入門講座（2）
- 第4回 金融に関する入門講座（3）
- 第5回～第15回 グループごとにテーマを設定し、調査を行う。
- 第16回 報告会

【履修上の注意事項】

以下のような方がこの演習に適していると思います。

- ・金融、経済に関心がある。
- ・通常授業だけでなく、課外での活動に積極的に参加できる。

関連科目：「金融論Ⅰ・Ⅱ」「国際金融論Ⅰ・Ⅱ」「ファイナンシャルプランニング」「証券市場論Ⅰ・Ⅱ」

【評価方法】

2/3以上の出席、宿題・レポート提出、報告を単位取得の条件とします。

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献】

「入門金融」吉野直行・高月昭年（編著）有斐閣、「エコノミクス入門金融」池尾和人（編著）ダイヤモンド社
「入門 証券論」榊原茂樹、他（著）有斐閣、「ファースト・ステップ金融論」岸真清・藤波大三郎（著）経済法令研究会

演習 I

担当教員 友知 政樹

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

演習 I（3年次ゼミ）の目的は、沖縄の自治・自己決定権や基地問題とその解決に関連付けた社会調査・研究の全段階を経験的に学習することを通して、社会調査の理論と方法を体得することである。概要は、社会調査の理論と方法を教科書や先行研究より事前に学習した上で、地域環境政策の立案・実施・評価するとの想定のもと、それに必要な社会調査を設計・実施し、収集したデータを分析し、報告書にまとめることである。データを通して実社会と対峙し、問題発見および解決能力の涵養を目指して欲しい。

【授業の展開計画】

- ① 4月～5月 社会調査に関する事前学習
- ② 6月～7月 政策ならびに調査テーマの設定
- ③ 8月～9月 調査準備
- ④ 10月 第1回目調査の実施と結果の分析
- ⑤ 11月 政策の立案と実施
- ⑥ 12月 第2回目調査の実施と結果の分析
- ⑦ 1月～3月 総まとめと報告書作成

【履修上の注意事項】

政策により世の中を良くしたいという熱い思いのある学生を求む。

【評価方法】

ゼミへの貢献度や提出物などにより総合的に評価する。

【テキスト】

『社会調査へのアプローチ—論理と方法（第2版）』 大谷信介(著), 後藤範章(著), 永野武(著), 木下栄二(著), 小松洋(著). ミネルヴァ書房(2005/02).

【参考文献】

随時紹介する。

演習 I

担当教員 根路銘 もえ子

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習では、沖縄の主力産業である観光産業の現状を把握し、今後の発展について議論する。また、観光情報産業において活用されている地理情報システム（GIS）の基本についての学習も行い、観光産業と情報産業の融合について考える。

【授業の展開計画】

演習形態としては、インターネットおよび現地調査による観光に関する情報の収集、収集データの分析、文献の講読、データ分析結果・文献内容の発表、議題に関する議論を行う。

GISの基本的機能の学習内容としては、空間データの種類や空間データ構造、地図測地系・座標系、レイヤ構造・編集、デジタル地図の表示や各種分析法について学習する。

- (1) データ収集・分析手法の学習
- (2) 観光産業の現状把握
「観光白書」等の講読
個人単位で分担箇所の解説。
- (3) 観光に関するテーマに関する調査
グループ単位でテーマに関する調査および発表（グループ学習）
- (4) GISに関する学習
GISの基本的機能を学習。
- (5) GISを利用した観光情報提供
グループ単位で観光情報への応用を検討する。（グループ学習）

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席状況、レポート、研究発表内容により総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは講義時に指定する。

【参考文献】

参考文献は講義時に紹介する。

演習 I

担当教員 呉 錫畢

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

演習 I では、なにが環境危機を招いたか、という問題意識からスタートする。環境問題は知識のみではなかなか実感が湧いてこないのので、体験的な知識や問題意識を要求する。そして、演習の始まりは、‘なぜ?’という疑問から始まる。沖縄のサンゴ礁の破壊はなぜ?地球温暖化問題はなぜ?その疑問のなかで一つの糸口として、タダである環境に価格を付ける手法を自ら体得する基本を演習する。つまり、本演習では、‘環境はいくらか’を探り、足元から地球環境問題を熱く考察する。

【授業の展開計画】

- 1週目：学問とは
- 2週目：学問を論文で表現する
- 3週目：口頭発表の作法と技法
- 4週目：レジュメの作り方
- 5週目：環境と経済の物語 1
- 6週目：環境と経済の物語 2
- 7週目：沖縄環境問題の課題の調査
- 8週目：調査の報告と討論
- 9週目～15週目：調査の報告と討論
- 16週目：期末テスト（共同討論会）
- 17週目～21週目：夏休み中の調査をグループ別に発表と討論
- 22週目～26週目：討論結果のグループ別資料集作成及び検討
- 27週目～30週目：資料を中心にホームページへの表現技術
- 31～32週目：総括と表現の決算

【履修上の注意事項】

演習は、自分の問題意識を持つことが大事である。

【評価方法】

発表や討論を参照

【テキスト】

小林・船曳編（1994）、『知の技法』、東京大学出版会。

【参考文献】

- ①藤崎成昭編（1992）、『発展途上国の環境問題（豊かさの代償・貧しさの病）』、アジア経済研究所。
- ②鶴見良行（1992）、『ナマコの眼』（ちくま学芸文庫）、筑摩書房。

演習 I

担当教員 上江洲 薫

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

本演習の目的は、受講生が社会調査のすべての課程を経験することによって、社会調査の理論と方法を体得すること、また、産業界の現状や環境保全の取り組み状況について理解を深めることである。具体的には、観光関連産業（ホテル業）や流通業（小売業）などの業界の現状や環境保全の取り組み内容を調べ報告する。また、夏休み期間に、離島などで地域調査（調査票の配布・回収、聞き取り調査）を実施する。この調査で得られたデータをもとに分析・考察を行い、報告書を作成する。

【授業の展開計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2～3回 沖縄観光の現状と今後：意見発表作成
- 第4～8回 各産業界の現状と環境保全の取り組み動向の発表（グループ学習）
- 第9～11回 調査の企画、仮説の構成
- 第12～14回 調査項目の設定、質問文・調査票の作成、対象者の選定
- 第15～16回 地域調査対象地域における既存データの分析
- 第17回 後期ガイダンス
- 第18～20回 地域調査結果の集計・分析
- 第21～25回 仮説の検証、調査報告書作成
- 第26～28回 企業の環境保全の取り組み動向調査・報告（各受講生が発表）
- 第29～31回 卒論構想の作成・発表
- 第32回 まとめ

【履修上の注意事項】

本演習は観光業や流通業、産業界の環境保全の取り組み、環境ビジネス、地域環境政策に関心があり、フィールドワークに積極的に取り組める学生に向いている。社会調査士の資格対象演習。

【評価方法】

出席状況（2/3以上）、レポート、発表、野外調査、報告書作成により総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定はない。

【参考文献】

大谷信介他編著（2005）『社会調査へのアプローチ—論理と方法—』（第2版）ミネルヴァ書房。盛山和夫（2004）『社会調査法入門』有斐閣。佐藤郁哉『フィールドワーク』（新曜社）

演習 I

担当教員 前泊 博盛

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

沖縄経済の現場調査を通して、生きた経済の動き「動態経済学」をつかみます。経済統計と実体経済の乖離はなぜ生じるのか。乖離を埋めるための調査・取材力、筆力、人間力の向上を目指します。個別テーマとして「沖縄のトップ企業100社の研究」、実際に有価証券や外貨預金など金融商品への「投資」研究、起業班は実際に会社の創立・創業のノウハウを実務者や起業家から学びます。琉球大学をはじめ、県外大学とのゼミ交流を通して人的ネットワークを広げます。

【授業の展開計画】

【授業の展開計画】

- 1：演習の進め方
- 2：個別テーマの選定、グループ分け
- 3：テーマ研究と調査報告①
- 4：テーマ研究と調査報告②
- 5：テーマ研究と調査報告③
- 6：テーマ研究と調査報告④
- 7：テーマ研究と調査報告⑤
- 8：テーマ研究と調査報告⑥
- 9：テーマ研究と調査報告⑦
- 10：ディベート研究（ディベートの基本）
- 11：ディベート研究①
- 12：ディベート研究②
- 13：ディベート研究③
- 14：ディベート研究④
- 15：前期総括
- 16：レポート提出

【後期】

ゼミ生の意向を踏まえ、新たな演習方針を決定します。

【履修上の注意事項】

新聞を毎日読むこと。資料・本代を惜しまないこと。

【評価方法】

課題（レポート）の提出、出席状況で総合的に評価を行う。

【テキスト】

- ①「もっと知りたい！本当の沖縄」（前泊博盛著、岩波ブックレット）
- ②「検証沖縄問題」（百瀬恵夫、前泊博盛著、東洋経済新報社）
- ③沖縄振興開発等総点検報告書（沖縄県、2010年6月）など

【参考文献】

各研究テーマに応じて、随時紹介します。

演習 I

担当教員 山川（矢敷） 彩子

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

演習Iでは、サンゴ礁や海洋生物、海岸環境を対象に、専門書の購読、聞き取り調査、および現地調査等を実施する。演習 I は事前の予備登録で許可された学生のみ、登録可能とする。その他は、研究室（9-505）に相談に来ること。ゼミの内容を効果的に学習するために、私が担当している「環境資源論」と「産業と環境」は、2・3年次のうちに必ず講義を受講すること。

【授業の展開計画】

演習は主に以下の4つからなる。

(1) 海岸生物に関する実習

海岸にどのような生物が生息しているか調べ生物の役割や体の構造について野外実習と室内実験から学ぶ。実習は週末に集中で実施する。

(2) 生物や自然環境に関するグループ研究

サンゴ礁、干潟、やんばる、河川、タイモ畑、湧水など沖縄の自然環境やそこに生息する生物に関して、教員の指導の下、グループで調査研究をおこなう。

(3) レポート作成・発表

(1)、(2)の実習後、データを処理・分析し考察を加えレポートとしてまとめる。基本的なグラフや表の作成はもちろん、レジメやパワーポイントを用いて発表をおこなう。

(4) 輪読

自然科学に関する専門書を読み込み、レジメを作成し、パワーポイントで発表する。

【履修上の注意事項】

次のような学生を特に歓迎！ ①海や生き物が好き ②体力があって元気 ③時間や締め切りを守る
事前の予備登録で許可された学生のみ、登録可能とする。その他は、研究室（9-505）に相談に来ること。

ゼミの内容を理解し、効果的に学習するために、私が担当している「環境資源論」と「産業と環境」は、2・3年次のうちに必ず講義を受講すること。また、共通科目の生物学や生態学関連講義を出来る限り受講すること。

【評価方法】

単位取得には、3分の2以上の出席、課題（レポート、レジメ）の提出、およびプレゼンテーションの実施が必須である。

評価は、ゼミにおける発言の内容やレポート、プレゼンテーションの内容により総合的に評価する。欠席する場合には、事前に必ず連絡をすること。メールによる連絡を受け付ける。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

適宜紹介する。

演習Ⅱ

担当教員 前泊 博盛

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

沖縄経済の調査研究を行います。沖縄企業研究、沖縄振興策研究、投資研究、起業研究など、現場取材を通して企業を見る、知る、分かる調査手法を学びます。

【授業の展開計画】

- 【1】演習Ⅱの進め方
- 【2】卒論の研究テーマの選定、決定。
- 【3】卒論調査（沖縄とトップ企業100社の研究、投資研究、起業研究、ディベートなど）
- 【4】卒論調査（〃）【5】卒論調査（〃）【6】卒論調査（〃）【7】卒論調査（〃）
- 【8】卒論調査（〃）【9】卒論調査（〃）【10】卒論前期中間報告
- 【11】卒論調査（沖縄とトップ企業100社の研究、投資研究、起業研究、ディベートなど）
- 【12】卒論調査（〃）【13】卒論調査（〃）【14】卒論調査（〃）【15】卒論調査（〃）
- 【16】卒論前期最終報告

- 【1】後期演習Ⅱの進め方
- 【2】前期課題の総括と卒論後期中間報告
- 【3】卒論調査（沖縄とトップ企業100社の研究、投資研究、起業研究、ディベートなど）
- 【4】卒論調査（〃）【5】卒論調査（〃）【6】卒論調査（〃）【7】卒論調査（〃）
- 【8】卒論最終報告
- 【9】卒論補足指導
- 【10】卒論とりまとめ
- 【11】学外研修（メディア）
- 【12】学外研修（県外企業）
- 【13】学外研修（沖縄県庁・市町村役場）
- 【14】学外研修（県内金融機関）
- 【15】演習Ⅱ総括

【履修上の注意事項】

出席を重視します。コミュニケーション能力を高めるため、ITツールを積極的に活用します。新聞は毎日目を通すこと。課題に対する前向きな調査・研究姿勢を求めます。

【評価方法】

出席と調査・研究・報告内容で評価します。

【テキスト】

調査・研究テーマに沿って指定、指導します。

【参考文献】

琉球新報、沖縄タイムス、日経新聞など新聞各紙、週刊「東洋経済」、週刊「ダイヤモンド」、週刊「日経ビジネス」など経済各誌ほか

演習Ⅱ

担当教員 名城 敏

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

演習Ⅱ

担当教員 根路銘 もえ子

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習では、演習Ⅰで各自が設定した観光情報およびGIS利用に関するテーマについて、詳細な調査や実装を行い、調査・実装結果に考察を加え、卒業論文をまとめる。

演習の時間は、各自の進捗状況を報告してもらい、調査方法や調査内容について、ゼミ生同士で意見交換や議論する時間とする。

【授業の展開計画】

- (1) テーマに関する情報収集
- (2) 現地調査
- (3) 研究の進捗状況発表
- (4) 卒業論文のまとめ

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席状況、卒業論文の内容により総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは講義時に指定する。

【参考文献】

参考文献は講義時に紹介する。

演習Ⅱ

担当教員 呉 錫畢

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

演習Ⅰで習得した知識に基づいて、演習Ⅱでは、実際に足を運んで生のデータによって学問を表現する、つまり、文章を持って知を表現する。具体的には、一例として、環境価値の評価を生のデータを持って調査し、その地域における。環境価値を貨幣で表し、それを各自の視点でまとめていく演習を行う。

【授業の展開計画】

- 1週目：卒業論文とは
- 2週目：卒業論文の作法と技法
- 3週目：環境・経済調査の方法1
- 4週目：環境・経済調査の方法2
- 5週目：参考資料を利用する
- 6週目：沖縄環境問題の課題の調査
- 7週目：環境と地域発展について論ずる1
- 8週目：環境と地域発展について論ずる2
- 9週目：調査の報告と討論
- 10週目～15週目：調査の報告と討論
- 16週目：期末テスト（共同討論会）
- 17週目～21週目：夏休み中の調査をグループ別に発表と討論
- 22週目～25週目：討論結果のグループ別資料集作成及び検討
- 26週目～29週目：資料を中心にホームページへの表現技術
- 30～31週目：総括と表現の決算
- 32週目：期末テスト（共同討論会）

【履修上の注意事項】

演習は、自分の問題意識を持つことが大事である。

【評価方法】

発表や討論を参照

【テキスト】

- ①小林・船曳編（1994）、『知の技法』、東京大学出版会。

【参考文献】

- ①植田和弘（1998）、『環境経済学への招待』、丸善ライブラリー。
- ②植田和弘監修（1994）、地球環境キーワード（環境経済学で読み解く）、有斐閣双書。

演習Ⅱ

担当教員 小川 護

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒論作成のための調査、卒論中間発表会、卒論作成までを指導する。論文作図にあたってはGISソフト活用を積極的に勧める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	第1回オリエンテーション	17	
2	第2回～第15回まで卒論に関する文献紹介	18	
3	第15回～第28回 卒論中間報告	19	
4	第29回卒論提出、校正、卒論をPDFにする	20	
5	第30回 卒論報告会	21	
6		22	
7		23	
8		24	
9		25	
10		26	
11		27	
12		28	
13		29	
14		30	
15		31	
16			

【履修上の注意事項】

出席を重視するので休まないこと。就活等で欠席する場合にはあらかじめ届けを出すこと。8月に県立糸満青年の家にて、前半総括の卒論中間報告会を実施する。

【評価方法】

ゼミの中での発表状況、出席状況および卒論の内容等で総合的に判断する。

【テキスト】

野間晴雄(2012)ジオ・パルNEO ―地理学・地域調査便利帖―、海青社

【参考文献】

演習Ⅱ

担当教員 永田（島袋） 伊津子

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

演習Ⅰで学んだ知識を基に卒業論文を完成させる。

【授業の展開計画】

前期は卒業論文作成作業を行い、後期は各自の卒業論文作成作業の進捗状況を報告する。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席・宿題・レポート・卒業論文に基づいて総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指示する。

【参考文献】

演習Ⅱ

担当教員 上江洲 薫

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習では、演習Ⅰで取得した企業の環境保全の取り組み方法や社会調査の手法などに基に、各自が設定したテーマに沿って現地での詳細な調査および考察を行い、その内容を卒業論文にまとめる。この過程により、情報収集・分析・プレゼンテーション・企画力の能力をより一層高め、一般社会で適応できる能力を身につける。

【授業の展開計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2～3回 卒論テーマの設定とその選定理由
- 第4～8回 卒論テーマに関連する論文紹介
- 第9～11回 卒論テーマに関する現状・課題の把握
- 第12～14回 調査項目の設定、対象者・対象地域の選定、質問文・調査票の作成
- 第15～16回 調査の対象者・対象地域における既存データの分析
- 第17回 後期ガイダンス
- 第18～25回 調査データの分析・卒論の中間報告・作成
- 第26～31回 卒論仮提出・添削、卒論本提出
- 第32回 卒論報告会

【履修上の注意事項】

出席を重視する。また、受講生は目的を持って計画的に行動すること。

【評価方法】

出席状況（2/3以上）、発表状況、卒論内容などにより総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定はない。

【参考文献】

演習時に紹介する。

演習Ⅱ

担当教員 友知 政樹

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

3年次の演習Ⅰで行った予備調査を踏まえ、地域環境政策に関する調査研究を行う。調査研究はゼミ生各自が能動的かつ自由に行い、成果を卒業論文としてまとめ、提出する。

【授業の展開計画】

前期：調査研究の進捗状況に応じ、発表・討論・情報交換を行う。
後期：卒業論文執筆および最終発表を行う。

【履修上の注意事項】

原則として3年次に演習Ⅰ（友知ゼミ）を履修すること。

【評価方法】

ゼミでの取り組み（能動的に参加しているか）と卒業論文とを合わせて評価する。

【テキスト】

必要に応じて紹介する。

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

演習Ⅱ

担当教員 山川（矢敷） 彩子

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

演習では、沖縄の自然環境や生物、それらの保全に関して、卒業研究の実施、卒業論文の制作をおこなう。演習Ⅰ（山川ゼミ）を登録した学生について、Web登録を許可する。

【授業の展開計画】

演習は主に以下の2つからなる。

(1) 卒業研究

卒業研究の内容は自由であるが、できれば沖縄の自然環境や生物およびそれらに関するを中心に
おこなうことが望ましい。

<過去の卒業研究の例>

- ・沖縄の海の危険生物に関する意識調査
- ・沖縄本島におけるウミガメの産卵場所に関する聞き取り調査
- ・泡瀬干潟におけるホソバウミジグサの観察
- ・宇座海岸におけるイノリの生物の動向調査
- ・金城ダムにおける外来魚ジルティラピアの成長と産卵期推定
- ・佐敷干潟に生息するミナミコメツキガニの個体群動態
- ・泡瀬干潟の利用形態に関する聞き取り調査

(2) 輪読

知識・教養の向上を目的に、自然科学に関する専門書を読み込み、レジメを作成し、パワーポイントで発表する。

【履修上の注意事項】

演習Ⅰ（山川ゼミ）を登録した学生についてのみ、Web登録を許可する。その他の学生は、事前に研究室（9-505）に相談に来ること。

【評価方法】

単位取得には、3分の2以上の出席、課題（レポート、レジメ）の提出、およびプレゼンテーションの実施が必須である。就職活動による欠席は公欠と認められないので、注意すること。
評価はゼミにおける発言の内容、卒業研究への取り組み姿勢、課題の出来などを総合し実施する。
欠席する場合には、事前に必ず連絡すること。メールによる連絡を受け付ける。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

適宜紹介する。

沖縄経済論 I

担当教員 前泊 博盛

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

沖縄県経済の実像を、統計データの分析を通して検証します。経済は、時として統計データと実態との乖離が生じます。より正確な実態経済の把握のためには、多角的な視点とフィールドワークが不可欠です。「常識」を疑い、「実態」を把握する手法を学びます。必要に応じてゲスト講師を招き、リアルな沖縄の実態経済を語っていただきます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	沖縄経済の課題
3	人口と雇用・失業—高失業、低賃金、低所得の背景
4	産業構造の変遷
5	3 K 経済—基地経済
6	3 K 経済—財政依存経済
7	3 K 経済—観光
8	新 6 K 経済—金融
9	新 6 K 経済—健康、環境
10	新 6 K 経済—交通（運輸・航空・海運）
11	新 6 K 経済—教育、研究
12	沖縄経済特区＝IT特区、情報通信産業
13	沖縄経済特区＝観光特区、
14	沖縄経済特区＝自由貿易地域、特別自由貿易地域
15	沖縄経済の展望（前期総括）
16	前期試験

【履修上の注意事項】

沖縄経済論 I（前期）、沖縄経済論 II（後期）を通期で履修が望ましい。

【評価方法】

出席と最終試験などにより総合的に評価する。

【テキスト】

毎回、資料を配布（メール配信）します。

【参考文献】

「検証 沖縄問題～復帰30年経済の課題と展望」／百瀬恵夫・前泊博盛著／東洋経済新報社

沖縄経済論Ⅱ

担当教員 前泊 博盛

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

沖縄経済論Ⅱでは、沖縄経済振興策について学びます。政府による沖縄振興計画とは何か。地域経済振興政策としての沖縄振興開発計画の策定過程から実施にあたっての課題を検証します。必要に応じて、行政や企業トップなどゲスト講師を招き、論議を深めていきます。

【授業の展開計画】

【授業の展開計画】

- 1：講義の進め方
- 2：第一次産業＝農業
- 3：第一次産業＝水産業、畜産業
- 4：第二次産業＝建設業
- 5：第二次産業＝製造業
- 6：第三次産業＝サービス業
- 7：地方財政と経済振興策
- 8：市町村と産業政策
- 9：離島経済＝宮古群島
- 10：離島経済＝八重山群島
- 11：離島経済＝沖縄本島周辺離島
- 12：基地返還と沖縄振興
- 13：観光振興策
- 14：経済のグローバル化と沖縄経済
- 15：沖縄経済の総括
- 16：後期試験

【履修上の注意事項】

沖縄経済論Ⅰ（前期）、沖縄経済論Ⅱ（後期）を通期で履修が望ましい。

【評価方法】

出席を重視します。成績は最終試験などにより総合的に評価します。

【テキスト】

毎回、資料を配布（メール配信）します。

【参考文献】

- ・「検証 沖縄問題～復帰30年経済の課題と展望」／百瀬恵夫・前泊博盛著／東洋経済新報社
- ・「沖縄振興計画」（内閣府）
- ・その他、講義時に紹介します

沖縄社会統計論

担当教員 友知 政樹

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

沖縄に関する様々な統計資料や映像資料を使い、沖縄の過去、現在、未来について考える。データに基づいて沖縄を理解することに努める。

【授業の展開計画】

講義の際に詳しく説明する。

【履修上の注意事項】

特になし。

【評価方法】

出席状況、議論への参加度、小テスト、最終試験などにより総合的に評価する。

【テキスト】

講義の際に詳しく説明する。

【参考文献】

講義の際に詳しく説明する。

環境アセスメント I

担当教員 玉城 重則

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

道路建設、港湾建設、ダム建設等、各種開発事業の実施による環境への影響を事前に予測評価して、その対策を検討することが良好な環境を保全し、持続可能な開発を行うために、必要不可欠となっている。環境アセスメント I では、このような環境影響評価の実施に関連する法律、現地調査手法、予測評価手法等について学ぶ。

【授業の展開計画】

1. 講義ガイダンス（環境アセスメントとは）、テキスト・参考図書の紹介等
2. 環境影響評価に関する法律（環境影響評価法）
3. 環境影響評価に関する法律（沖縄県環境影響評価条例）
4. 大気質の環境影響評価（現況調査）
5. 大気質の環境影響評価（予測と評価）
6. 騒音の環境影響評価
7. 振動の環境影響評価
8. 前半の総括
9. 悪臭の環境影響評価
10. 水質の環境影響評価（現況調査）
11. 水質の環境影響評価（予測と評価）
12. 生態系の環境影響評価（現況調査）
13. 生態系の環境影響評価（予測と評価）
14. 景観等の環境影響評価
15. 環境アセスメント I の総括
16. 期末テスト

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席状況、テストおよびレポート提出等より総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは特に指定しない。

【参考文献】

参考文献は適宜紹介する。

環境アセスメントⅡ

担当教員 上原 辰夫

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

豊かな暮らしを営むためには、道路や空港、港湾の整備、電気を得るための発電所の建設ゴミを処理するための廃棄物処理場の建設、水を確保するためのダム建設が必要となる。一方、我々が健康で快適な生活を送るには、きれいな空気や水、豊かな自然があることが不可欠である。必要な事業であっても豊かな自然が失われることは避けなければならない。授業では開発と環境の関連を考えながら、環境アセスメントの実際の手法と環境アセスメントの意義を理解し、市民が参加し意見を反映させる場があることを学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	沖縄の自然
2	暮らしと環境、経済と環境
3	環境アセスメントの概要（法律の目的、対象事業）
4	環境アセスメントの手続き（方法書、準備書、評価書）
5	環境アセスメントの実施（陸生動物）
6	環境アセスメントの実施（陸生植物）
7	陸域生態系
8	環境アセスメントの実施（悪臭）
9	環境アセスメントの実施（騒音、振動）
10	環境アセスメントの実施（大気）
11	環境アセスメントの実施（海域・サンゴ）
12	環境アセスメントの実施（海域・サンゴ）
13	生物多様性
14	沖縄県の環境アセスの現況・問題点
15	事業内容決定への参加の仕組み
16	試験

【履修上の注意事項】

下記内容を達成目標として念頭に置き、授業に臨んで欲しい。

1. 環境アセスメントについて理解を深める。
2. 環境アセスメントのあり方を知ることにより、持続可能な社会形成のために何が必要か、自分に何ができるかを発見する。
3. 環境保全と開発行為を学生の視点、科学的な視点から判断できる力を身に付ける。

【評価方法】

レポート及び学期末試験

以上を合計して、A=90~100点、B=80~89点、C=70~79点、D=60~69点、F=59点

【テキスト】

パワーポイントにより実施（必要に応じテキストコピーを配布）

【参考文献】

自然環境アセスメント技術（Ⅰ）～（Ⅳ） 大気・水・環境負荷の環境アセスメント（Ⅰ）～（Ⅳ）
 道路環境影響評価の技術手法（1）～（4） 環境白書（環境省発行、最新年度）
 環境アセスメント評価書・・・等

環境会計

担当教員 井口 千秋

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「21世紀は環境の世紀」などと言われていますが、環境問題について行動するためには、環境にはどのような問題がありそれに対する解決策にはどんなものがあるのかという知識がなければ、気持ちがあっても行動はできません。そこで、本講義では環境問題について会計技術の側面から、環境会計の実態把握と企業の環境会計のあり方について理解を深めていただき、環境人としての知識を深めて頂きます。

【授業の展開計画】

1. レポートの書き方
2. 環境会計とは
3. 環境庁環境会計ガイドライン
4. 事例研究
5. 総括

【履修上の注意事項】

1. 簿記原理を受講したものを優先とします。
2. パソコン教室での授業になります。

【評価方法】

出席，授業参加 50%
期末レポート 50%

【テキスト】

【参考文献】

環境科学実験

担当教員 新垣 武、名城 敏

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 実験実習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

環境科学の履修過程において環境の現状把握に必要な現況観測は必要不可欠な事項だと考えられる。環境科学実験においては環境要素の中でも最も基本的な項目である水質、騒音についての測定手法を修得するとともに結果の取りまとめ方法を学ぶ。

また、今後の環境問題とその対策を考える上で重要な新エネルギーに関連する実験を行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義概要
2	水質分析、騒音測定、新エネルギー関連の実験
3	〃
4	〃
5	〃
6	〃
7	〃
8	〃
9	〃
10	〃
11	〃
12	〃
13	〃
14	〃
15	総括
16	レポート最終締め切り

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席状況、レポートなどを総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは特に指定しない。参考文献は適宜紹介する。また、参考資料は適宜配布する。

【参考文献】

環境教育論

担当教員 砂川 かおり

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

従来型の「銀行型教育」ではなく、パウロ・フレイレが提起した「問題提起教育」をファシリテートできる力を育てる。生物にとって大切な「水」資源をテーマに、始めに「水」に関する既存の環境プログラムを実施する。次に、宜野湾市の水源の調査、水質調査、水利用調査等を実施し、地域の「水資源」についての理解を深める。最後に、湧水・井泉めぐりツアーを企画し、実践してみる。

【授業の展開計画】

第1週 講義概要説明 アイス・ブレイキング
第2・3週 受講生による「水」に関する既存の環境プログラムの実施（主に室内にて）
第4週 教員による宜野湾市の「水」の調査に関する説明
第5・6・7週 宜野湾市の水源、水質、水利用調査（宜野湾市立博物館へのヒアリング等を含む）
第8週 受講生による「水」の調査のまとめ・発表
第9週 教員による湧水・井泉めぐりツアーづくりに関する説明
第10・11・12週 湧水・井泉めぐりツアー 準備
第13週 予行演習/ツアー内容をグループ毎に教員に説明
第14・15週 ツアー実施/ツアー参加（土曜日を予定）
第16週 ツアーふりかえり・分かち合い

※都合により、予定が変わることがあります。

※宜野湾立博物館へ環境プログラムとして提案できるようなツアーの開発を目指します。

【履修上の注意事項】

野外授業やツアーは、土曜日に行われる場合があります。

野外授業では、受講生に直接、現地集合してもらうことがあります。

【評価方法】

2/3以上の出席、環境プログラムの実施、「水」調査、ツアーの実施とそれらに係る課題の提出を単位取得の最低条件とし、それらの内容を総合的に評価します。

【テキスト】

随時資料を配布します。

【参考文献】

- ・エココミュニケーションセンター『ファシリテーター入門—環境教育から環境まちづくりへ』（柘植書房新社、2002）
- ・川嶋宗継・市川智史・今村光章 編著『環境教育への招待』（ミネルヴァ書房、2002年）
- ・パウロ フレイレ『希望の教育学』（太郎次郎社、2001）、その他 適宜必要に応じて案内する。

環境経営

担当教員 井口 千秋

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「21世紀は環境の世紀」などと言われていますが、環境問題について行動するためには、環境にはどのような問題がありそれに対する解決策にはどんなものがあるのかという知識がなければ、気持ちがあっても行動はできません。そこで、本講義では環境問題について企業経営の側面から、環境経営の実態把握と企業の環境政策のあり方について理解を深めていただき、環境人としての知識を深めて頂きます。

【授業の展開計画】

1. レポートの書き方
2. 環境経営とは
3. 環境庁環境報告ガイドライン
4. 事例研究
5. 総括

【履修上の注意事項】

1. 簿記原理を受講したものを優先とします。
2. パソコン教室での授業になります。

【評価方法】

出席，授業参加 50%
期末レポート 50%

【テキスト】

【参考文献】

環境経済学 I

担当教員 呉 錫畢

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

地球温暖化の問題がかつてなく大きくクローズアップされている今日である。何が地球環境問題をもたらしたのか。経済要因なきには語れない環境問題であるが、経済成長への優先は環境の犠牲をもたらす。しかし、環境を重視すれば経済成長の停滞を感受しなければならない。つまり経済成長と環境は効率と公正との緊張関係にあるのである。このような問題意識に基づいて、環境経済学の理論のみならず、身近な沖縄の環境問題を経済学の観点より分かりやすく解説する。

【授業の展開計画】

- 1週目：環境と経済の話1
- 2週目：環境と経済の話2
- 3週目：沖縄経済と地域発展
- 4週目：環境破壊の経済的メカニズム
- 5週目：市場と外部経済
- 6週目：環境の経済価値
- 7週目：環境の価値評価の手段
- 8週目：開発と社会的共通資本1
- 9週目：開発と社会的共通資本2
- 10週目：環境政策の手段
- 11週目：沖縄経済発展と観光財
- 12週目：沖縄経済の特徴
- 13週目：沖縄経済のディレンマ
- 14週目：赤土汚染からみる沖縄の地域振興と開発
- 15週目：赤土汚染による生態系破壊
- 16週目：期末試験

【履修上の注意事項】

環境と経済に対して問題意識を持つこと。講義を聴いている人に迷惑をかけること。

【評価方法】

期末試験、レポート、出欠等を中心に評価する。

【テキスト】

呉錫畢 (2008) 『環境・経済と真の豊かさーテーゲー経済学序説ー』、日本経済評論社。

【参考文献】

- (1) 呉錫畢 (1999) 『環境政策の経済分析』、日本経済評論社。
- (2) 植田和弘 (1997) 『環境経済学』、岩波新書。その他、テーマに添って随時紹介する。

環境経済学Ⅱ

担当教員 呉 錫畢

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義は、沖縄のサンゴ礁の持つ生態系や景観のような自由財の非利用価値を測り、地域経済の発展や豊かさの観点より環境経済学の視点より概説する。そして、自然の尊さを沖縄サンゴ礁の貨幣評価で表現し、沖縄観光経済の現在と将来を診断するとともに、さらに沖縄文化でもあるテーゲーの経済学化を試み、真の豊かさとは何かについて考察し、さらに真の豊かさから見る経済発展の新たなパラダイムを提示する。

【授業の展開計画】

- 1週目：環境はいくらか
- 2週目：CVM(仮想市場評価法)
- 3週目：赤土汚染からみる沖縄の地域振興と開発の功罪
- 4週目：赤土汚染による生態系及び環境の損害評価
- 5週目：沖縄におけるサンゴ礁の現状
- 6週目：サンゴ礁の生態系及び景観の経済評価
- 7週目：環境と沖縄の観光経済
- 8週目：竹富島とピノキオ観光
- 9週目：成長するアイルランド観光
- 10週目：アイルランド観光経済と沖縄観光
- 11週目：沖縄経済と済州経済
- 12週目：沖縄と済州の観光産業
- 13週目：内発的発展からみる沖縄経済の発展可能性
- 14週目：環境・経済・沖縄
- 15週目：真の豊かさとテーゲー経済学
- 16週目：期末試験

【履修上の注意事項】

環境と経済に対して問題意識を持つこと。講義を聴いている人に迷惑をかけること。

【評価方法】

期末試験、レポート、出欠等を中心に評価する。

【テキスト】

呉錫畢 (2008) 『環境・経済と真の豊かさーテーゲー経済学序説ー』、日本経済評論社。

【参考文献】

- (1) 呉錫畢 (1999) 『環境政策の経済分析』、日本経済評論社。
- (2) 植田和弘 (1997) 『環境経済学』、岩波新書。その他、テーマに添って随時紹介する。

環境資源論

担当教員 山川（矢敷） 彩子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、受講生が琉球列島における自然的環境資源について理解を深めることを目的として、サンゴ礁、海草藻場、干潟、砂浜などにおける環境資源について、座学とフィールド実習（1回）により学ぶ。最終的には、環境資源の有効利用の仕方および環境保全について考える。

抽選から漏れた場合、登録調整期間中に教員に直接申し出れば、追加登録を認める。本講義は最終年次においても追試および再試験は実施しないので登録の際気をつけること。

【授業の展開計画】

講義では基本的に以下の内容を実施するが、講義の順番や内容は変更することがある。

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	環境資源とは
3	日本および琉球列島の成り立ち
4	海の危険生物
5	砂浜環境と資源
6	海岸浸食と防災
7	干潟環境と資源
8	サンゴ礁の資源・磯の恵み
9	藻場環境と資源
10	サンゴ礁とは
11	フィールドワーク（海岸実習）
12	サンゴ礁をめぐる問題①（オニヒトデの大量発生）
13	サンゴ礁をめぐる問題②（サンゴの白化）
14	サンゴ礁をめぐる問題③（破壊的漁業）
15	環境資源の有効利用（エコツーリズム）
16	期末試験

【履修上の注意事項】

登録調整期間の出席状況も評価に反映する。

欠席理由に関わらず、3分の1以上の欠席は不可となる。

出席で代筆が明らかとなった場合は不可となる。

最終年次においても追試は実施しないので気をつけること。

【評価方法】

講義の際に毎回記入するフィードバックシート（意見、感想、質問）の内容、試験およびレポートの内容により総合的に評価する。3分の1以上の欠席、課題の未提出、試験を欠席した学生には単位を与えない。

【テキスト】

テキストは指定しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

環境政策書講読 I

担当教員 砂川 かおり

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、環境に関する本を読むことを通じて環境についての基礎知識を習得することともに、批判的・理論的に読む力をつけることを目的にしている。具体的には、琉球列島の環境問題について学習していく。

【授業の展開計画】

琉球列島の環境問題に関する文献を講読していく。

具体的には、

- ①受講生が担当する部分(5~10ページ程度)について、用語解説、要約、感想、質問を記載したレジュメを作成、配布し、それを基に発表する。
- ②教員が必要な箇所については、詳しく説明する。
- ③可能な限り講読した部分に関連しての討論も行う。

第1週 講義概要説明・発表担当割り振り

第2~15週 『琉球列島の環境問題』を講読

授業の最後にリアクションペーパーを記述し、提出する。

リアクションペーパーは、発表者や教員からの質問への回答、感想や疑問等を記述して提出する。

【履修上の注意事項】

初回のガイダンスには必ず出席して下さい。授業の内容を説明し、発表担当割り振りをを行います。

【評価方法】

成績評価は発表、リアクションペーパー、出席および講義への参加姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】

沖縄大学地域研究所〈「復帰」40年、琉球列島の環境問題と持続可能性〉共同研究班(2012)『琉球列島の環境問題』(高文研)

【参考文献】

- ・適宜必要に応じて案内する。

環境政策書講読Ⅱ

担当教員 渡久地 朝央

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、環境に関する文章を読むことを通じて環境や環境政策等についての基礎知識を習得することともに、批判的・理論的に読む力を涵養することを目的としている。

【授業の展開計画】

環境や開発等に関する文献を講読していく。

具体的には、

- ①受講生が担当する部分(5～10ページ程度)について、用語解説、要約、感想、質問を記載したレジュメを作成、配布し、それを基に発表する。
- ②教員が必要な箇所については、詳しく説明する。
- ③可能な限り講読した部分に関連しての討論も行う。

第1週 講義概要説明・発表担当割り振り

第2～15週 受講生による発表・講読

授業の最後にリアクションペーパーを記述し、提出する。

リアクションペーパーは、発表者や教員からの質問への回答、感想や疑問等を記述して提出する。

【履修上の注意事項】

初回のガイダンスには必ず出席して下さい。授業の内容を説明し、発表担当割り振りを行います。

【評価方法】

成績評価は発表、リアクションペーパー、出席および講義への参加姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】

詳しくは、授業で案内する。

【参考文献】

適宜必要に応じて案内する。

環境政策特別講義Ⅱ（環境と経済政策）

担当教員 新井 葉子

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 その他

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 夏期集中講義（世話役：根路銘もえ子）

【授業のねらい】

航空機や人工衛星など上空から地表の様子を撮影した写真を空中写真という。空中写真は今日、学校教育や博物館教育、新聞やテレビ、インターネットなど身近な場面で活用されているが、空中写真自体の歴史について顧みる機会はほとんどない。この授業では、まず欧米における空中写真の歴史を概観する。次に多様な分野（測量・軍事偵察・災害記録・遺跡調査・報道・教材・芸術表現）における日本の空中写真利用の事例を、欧米の事例と比較しつつ整理していく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	空中写真とは何か・授業全体の構成とねらいの説明
2	世界の空中写真史①（鳥瞰／空中に上がったカメラ／アメリカ初の空中写真）
3	世界の空中写真史②（気球カメラの自動化／凧・ロケット・鳩／航空機から撮影）
4	世界の空中写真史③（飛行船／世界大戦と空中写真）
5	戦争と日本の飛行術／臨時軍用気球研究会／所沢航空学校
6	陸軍飛行学校と空中写真術／関東大震災と空中写真
7	科学教育への導入／人文地理学への導入
8	考古学への導入／“飛行文学”
9	満洲航空空中写真部／軍機保護法／戦争画
10	ドイツの影響（『空かける騎士』）／写真兵器／真珠湾攻撃
11	WWIIと空中写真判読／絨毯爆撃のはじまり／アメリカによる日本爆撃
12	沖縄戦に際して米軍が撮影した空中写真
13	太平洋戦争後の日本の空中写真史と米軍統治下沖縄の空中写真史（1945～1972）
14	身近になった空中写真（アート／エッセイ／推理小説）
15	宇宙からの視点（宇宙飛行士／衛星写真／グーグルアース）
16	まとめ・試験

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席状況と試験を合わせて総合的に判断する。

【テキスト】

【参考文献】

Beaumont Newhall. Airborne Camera (Hastings House 1969)
西尾元充『空中写真の世界』（中央公論社 1969）

環境政策論 I

担当教員 呉 錫畢

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

地球温暖化の問題が叫ばれているが、それは経済成長に起因している。経済規模が益々巨大化される今日、循環型の経済を維持するための環境政策は可能なのか。経済発展を維持しつつ、環境政策の手法にはどのようなものがあるのか、経済学の観点から環境政策を解説する。市場に環境政策を取り組むデポジット制度、排出権取引、中古車が多い沖縄での廃車や廃タイヤ問題や赤土流出対策など、生活に密接関係がある基礎的な政策も含めて、分かる安く解説する。しかし、一方的な講義より、互いにディスカッションする場を設けたい。

【授業の展開計画】

1. 経済と環境への入門
2. 何が公害の原点の水俣病をもたらしたか
3. なぜ環境を学ぶのか
4. 持続可能な発展とは
5. 環境政策と政府の役割
6. 第二次世界大戦後の環境問題の変遷
7. 環境問題の国際化と環境政策の新たな展開
8. 経済政策からみる環境政策の手段
9. 環境政策の原則と指針
10. 環境政策の手法 (1) (総合的手法)
11. 環境政策の手法 (2) (規制的手法・経済的手法)
12. 地球温暖化問題と低炭素化社会を考える
13. 地球温暖化からみるCOP3とCOP15の意義
14. 人間と地球環境の安全保障
15. 地球温暖化の長期的な目標と低炭素社会
16. 沖縄経済と環境政策を論じる

【履修上の注意事項】

環境と経済、また地球環境問題に関心を持つことが望ましい

【評価方法】

期末試験、レポート、特に出欠を大事にする。

【テキスト】

松下和夫 (2007) 『環境政策のすすめ』 (京大人気講義シリーズ)、丸善株式会社。

【参考文献】

- ① 呉錫畢 (1999) 『環境政策の経済分析』、日本経済評論社。
- ② 石坂匡身 (2000) 『環境政策学—環境問題と政策体系』、中央法規出版。その他、テーマに添って随時紹介

環境政策論Ⅱ

担当教員 砂川 かおり

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、環境政策における地方自治体の役割、近世琉球の資源管理政策、現在の沖縄県内や先進地域の環境政策や課題等について理解を深める。

【授業の展開計画】

本講義では、教員が始めに環境政策における地方自治体の役割、続いて、近世琉球の資源管理政策、現在の沖縄県内や先進地域の環境政策や課題等について解説していく。

1. 講義概要説明
2. 3. 4. 環境政策における地方自治体の役割と課題
5. 6. 近世琉球の資源管理政策
7. 8. 「ゴミ問題」
9. 10. 「基地環境問題」
11. 12. 「自然保護」
13. 「公害問題（赤土流出等）」
14. リゾート開発と「まちなみ保存」
15. まとめ

授業中に教員がトピックに関する演習課題を提示し、受講生が回答を提出することがある。

【履修上の注意事項】

進行上の理由から、テーマの順番が入れ替わったり、内容を変更することがある。

【評価方法】

出席、課題の内容、期末試験により総合的に評価する。

【テキスト】

随時資料を配布する。

【参考文献】

適宜紹介する。

環境統計学 I

担当教員 友知 政樹

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義の目的は、様々な統計指標やグラフ、さらには基本的統計量などの読み方や算出方法などについて学ぶことである。具体的には、経済学部・地域環境政策学科で学んでいく際に重要な統計指標の理解を含め、記述統計学の基礎概念を全般的に学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	様々な統計指標とグラフ (1)
3	様々な統計指標とグラフ (2)
4	様々な統計指標とグラフ (3)
5	基本統計量 (1) 代表値① (平均値、中央値、最頻値)
6	基本統計量 (2) 代表値② (平均値、中央値、最頻値)
7	基本統計量 (3) 分散、標準偏差、変動係数
8	基本統計量 (4) 分散、標準偏差、変動係数
9	基本統計量 (5) 度数分布表、ヒストグラム
10	基本統計量 (6) 度数分布表、ヒストグラム
11	基本統計量 (7) 相関関係と因果関係、相関係数、擬似相関
12	基本統計量 (8) 相関関係と因果関係、相関係数、擬似相関
13	基本統計量 (9) クロス集計
14	総まとめ
15	最終試験
16	

【履修上の注意事項】

環境統計学IおよびIIの両方を履修することが望ましい。

【評価方法】

出席状況、小テスト、最終試験などにより総合的に評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献】

・統計学の基礎、河野光雄・友知政樹共著、牧野書店 (¥1,900+税)。
 ・統計でウソをつく法 (数式を使わない統計学入門) ダレル・ハフ著、高木秀玄訳、講談社 (¥880+税)。

環境統計学Ⅱ

担当教員 友知 政樹

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義の目的は、統計的データの分析に必要な確率論の基礎や、推定・検定統計学、さらには相関係数や単回帰分析の手法の基本的概念を習得することである。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	記述統計学の復習（1）
3	記述統計学の復習（2）
4	確率論の基礎（1）
5	確率論の基礎（2）
6	標本調査と中心極限定理
7	データの標準化と標準正規分布
8	点推定と区間推定（1）
9	点推定と区間推定（2）
10	統計的仮説の検定（1）
11	統計的仮説の検定（2）
12	相関係数、単回帰分析
13	単回帰分析、回帰係数の検定
14	総まとめ
15	最終試験
16	

【履修上の注意事項】

環境統計学IおよびⅡの両方を履修することが望ましい。

【評価方法】

評価方法 出席状況、小テスト、最終試験などにより総合的に評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献】

・統計学の基礎、河野光雄・友知政樹共著、牧野書店（¥1,900+税）。・統計でウソをつく法（数式を使わない統計学入門）ダレル・ハフ著、高木秀玄訳、講談社（¥880+税）。

環境評価実践論

担当教員 渡久地 朝央

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

経済発展に伴い発生している環境問題を解決するために、環境の費用や便益を適正に評価することが求められています。授業では通常は市場で取引されることの無い環境に対して、経済学をもとにした評価方法を学んでいきます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	環境と経済効率性
2	環境と費用便益分析
3	環境の貨幣価値と評価
4	直接利用価値と受動的利用価値
5	等価余剰と補償余剰について
6	支払意志額と受取意思額
7	仮想評価法（CVM）について
8	仮想評価法（CVM）における調査票の仕組み
9	仮想評価法（CVM）の事例
10	コンジョイント分析について
11	二項選択法と支払意志額の推計1
12	二項選択法と支払意志額の推計2
13	Excelによる仮想評価法
14	環境アセスメントにおける評価
15	環境アセスメントと社会経済評価
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

中間試験，期末試験をもって評価を行う。

【テキスト】

【参考文献】

栗山浩一『環境の価値と評価方法』，「ExcelのできるCVM 第3.2版」

環境評価入門

担当教員 渡久地 朝央

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

私たちは身の回りに存在する自然や文化・景観といった様々な環境を享受して生活していますが、経済活動の拡大とともに様々な環境問題も発生しています。

これまでの経済活動において環境に掛かる費用を無視してきたことが要因であり、経済活動に伴う環境問題を減らすために一定の費用を計上する必要が出てきています。

授業では環境対策の考え方と環境評価について説明していきます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	環境問題と環境コスト
2	環境対策と環境政策
3	環境問題と外部不経済
4	環境コストの負担問題
5	環境政策の変遷
6	環境的公正と環境基本法
7	補完性原理に基づく環境対策
8	WTPとWTAの考え方
9	表面選好法-CVMの基礎
10	表面選好法-CVMの事例
11	表面選好法-コンジョイント分析の基礎
12	表面選好法-コンジョイント分析の事例
13	顕示選考法-トラベルコスト法
14	顕示選考法-ヘドニック法
15	環境評価の総括
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

中間試験，期末試験をもって評価を行う。

【テキスト】

【参考文献】

鷲田豊明『環境評価入門』

環境文化論

担当教員 前田 一舟

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

環境と調和した暮らしを守ったり、環境保全活動の第一線で活躍する様々な専門家に関するエッセイの「読解」を通して、自然環境と私たちの暮らし（日常生活）や文化との繋がりを考える。また沖縄における共同売店の役割、捕鯨の是非についても自らで説明し、意見を述べられるようにする。

【授業の展開計画】

本講義では、『つながるいのち』を講読していく。具体的には、①教員が講読しながらその内容を説明し、関連する事象や問題、取り組みを紹介する。（②受講生が担当する部分にある環境・文化関連の用語や内容について説明していく。また、③担当する受講生以外にも前週に環境・文化関連用語や内容についての質問を知らせるので、受講生は調べておくこと。④可能な限り講読した部分に関連しての討論も行う。担当する受講生以外に、補足的（発表者の欠席を含む）に説明した場合、加点する。）沖縄の文化・風習についても教員が説明したり、映像資料も使用する予定である。

授業の後半にリアクションペーパーを記述・提出する。リアクションペーパーは、教員からの質問への回答、感想及び疑問等（400～800字）を記述して提出する。

また、課題として、（1）沖縄の共同売店の役割、（2）捕鯨の是非について、レポートを作成し、提出する。

1. 講義概要説明
2. 伝統的な「村」の営みと生きものの世界
3. 農業と里の多様性の復権を(1)
4. 農業と里の多様性の復権を(2)
5. 天然の色を後世に伝える
6. 共同売店の役割(1)
7. 共同売店の役割(2)
8. アイヌの「心」が教えてくれるもの(1)
9. アイヌの「心」が教えてくれるもの(2)
10. DVD『The Cove』視聴
11. 名護のイルカ漁について
12. 現場で働くプロを育て、人の手で自然の復元を(1)
13. 現場で働くプロを育て、人の手で自然の復元を(2)
14. 熱帯林と干潟。命の揺籠を見つめて
15. 自然の織りなす調和を伝えたい

【履修上の注意事項】

授業の進行状況によって、トピックの順番や内容を変更する場合がある。講義を受講する上での最低限のマナー（携帯電話・遅刻・居眠り・退出・私語）は、心得ておくこと。また、課題などの提出期限は厳守するものとし、締切日以降の提出は一切受け付けないので十分に留意すること。

【評価方法】

出席、リアクションペーパー、レポート等を総合的に評価する。

【テキスト】

日本環境ジャーナリストの会『つながるいのち 生物多様性からのメッセージ』（山と溪谷社、2005年）

【参考文献】

1. 小松 正之『クジラと日本人—食べてこそ共存できる人間と海の関係』（青春出版社、2002年）
2. 星川 淳『日本はなぜ世界で一番クジラを殺すのか』（幻冬舎、2007年）
3. その他、適宜案内する。

環境法

担当教員 砂川 かおり

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

環境問題は公害から生活環境問題、さらに将来世代の持続可能な発展を求める地球規模の問題へ拡大しています。環境法とは、環境の質を社会的に望ましい状態にするための法システムの総称です。つまり、現在および将来の環境の質の状態に影響を与える関係主体の意思決定を社会的望ましい状態の実現に向けるためのアプローチに関する法、および、環境に関する紛争処理に関する法律です。

【授業の展開計画】

本講義では、環境法に係るこれまでの理論的蓄積やアプローチ、判例等を学びながら、環境法に関する諸課題について理解を深め、問題点の抽出、解決方法等について考え、分析できる能力を身に付けることを目的としています。

第1週	講義説明、環境法への誘い
第2～4週	環境法の全体像
第5～8週	環境汚染の防止
第9～10週	廃棄物処理とリサイクル
第11～12週	自然保護の仕組み
第13週	地球環境問題への取り組み/原子力の利用と安全確保
第14週	企業活動と環境保全
第15週	まとめ
第16週	テスト

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席・演習課題・期末試験により評価します。

【テキスト】

畠山武道、北村喜宣、大塚直（2007）『環境法の入門』（日本経済新聞出版社）

【参考文献】

①北村喜宣（2009）『現代環境法の諸相』（財団法人 放送大学教育振興会）、②交告尚史 他(2012)『環境法入門 第2版』（有斐閣アルマ）③大塚直（2010）『環境法 第3版』（有斐閣）、④淡路剛久・大塚直・北村喜宣編『環境法判例百選 第2版（別冊ジュリスト(No.206)）』（有斐閣）、その他 適宜案内する。

観光経済論

担当教員 上江洲 薫

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

観光経済学は、観光事象の経済的側面に関する理解や分析の為に経済学または経済学の分析道具を適用しようとする応用経済学の一分野である。本講義では観光客の行動や観光地開発などによる経済効果の現状を理解するとともに、観光による地域活性化の取り組みやその課題などについて考える。

【授業の展開計画】

1. 講義説明
2. 観光の現状と経済効果①：国内・国際観光の現状、観光の経済効果、内発的発展としての観光
3. 観光の現状と経済効果②：経済効果の特徴、乗数効果
4. 観光商品の特徴と需要関係：観光商品の概念・特徴・構成要素、観光需要の法則と弾力性
5. 観光価格：観光価格の概要・決定メカニズム・設定目標、観光商品の価格戦略
6. 観光投資①：観光投資の概要・投資基準、観光費用の分析、観光投資リスクと投資決定
7. 観光投資②：観光投資案件の評価法、討論「外資系の投資は必要か」
8. 観光産業・旅行業界①：旅行商品、旅行会社の特徴
9. 観光産業・旅行業界②：旅行会社の動向・課題・今後、環境保全の取り組み
10. 観光産業・宿泊業①：宿泊業関連の法整備、ホテルの分類・経営形態・近年の動向
11. 観光産業・宿泊業②：旅館の種類と課題、温泉地の現状と新たな取り組み、環境保全の取り組み
12. 着地型観光：事業主体、住民の役割、取り組み事例
13. 観光課税：種類と特徴、導入理由、討論「観光税の導入は必要か」
14. 観光と自然環境①：エコツアーの効果と影響、影響の削減方法、観光産業の環境保全
15. 観光と自然環境②：業界の自己規制、指揮統制対市場ベースの改善策、環境収容能力
16. 試験

【履修上の注意事項】

本講義は観光地の紹介や楽しみ方を説明しないため、そのことを理解した上で受講して下さい。観光産業や地域振興などに興味がある学生を広く歓迎する。途中退席や私語を繰り返す受講生は大きな減点とする。初回から出席を取る。

【評価方法】

成績評価は出席（30点）や試験（40点）、講義時の作業物の提出や講義内容の感想および講義への参加姿勢（30点）で判断する。

【テキスト】

特に指定はない。適宜レジュメを配布する。

【参考文献】

ジェームズ・マック（2005）『観光経済学入門』日本評論社。角本伸晃（2011）『観光による地域活性化の経済分析』成文堂。中崎 茂（2002）『観光の経済学入門－観光・環境・交通と経済の関わり』古今書院。

観光情報論

担当教員 根路銘 もえ子

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、観光と情報の関係を学習することによって、観光情報について理解することを目的とする。具体的には、観光情報メディアとしてのインターネット、観光情報収集システム、観光情報提供システムについて学習することによって、今後、観光情報をどのように収集し、提供すれば良いかを考える。仮登録者が登録上限数を上回った場合、「初回講義時」に抽選を行うため、登録希望者は必ず初回講義に出席すること。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス・観光情報とは (1)
2	観光情報とは (2)
3	観光空間情報とは (1)
4	観光空間情報とは (2)
5	観光空間情報とは (3)
6	観光情報とインターネット
7	インターネットによる情報収集
8	観光情報提供方法 (1)
9	観光情報提供方法 (2)
10	旅行会社の取り組み
11	情報技術の活用事例 (1)
12	情報技術の活用事例 (2)
13	情報技術の活用事例 (3)
14	これからの情報技術活用 (1)
15	これからの情報技術活用 (2)
16	期末試験

【履修上の注意事項】

仮登録者が登録上限数を上回った場合、「初回講義時」に抽選を行う。仮登録人数に応じて、学年毎に登録上限数を同割合で設定し抽選する。

【評価方法】

出席状況、レポート、試験を総合的に評価する。

【テキスト】

講義中にレジメを配布する。

【参考文献】

観光学辞典，長谷政弘編著，同文館出版，1997. 現代観光学キーワード事典，前田勇編，学文社，1998. 観光学入門，岡本伸之編，有斐閣アルマ，2001. Google Maps Hacks，ギブソン リッチ，アール スカイラー著，オーム社，2007. ARのすべて，日経コミュニケーション編，日経BP，2009. 他講義時に紹介する。

外書講読 I

担当教員 島袋 栄一

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

環境問題に関する英文の読解を通して、環境政策に関する基本的な用語の理解を深める。外書講読 I では、毎回受講生全員がテキストを音読し、和訳していきます。

【授業の展開計画】

Week 1 講義内容の説明及び確認テスト
Week 2 ～ 7 Topics for Global Citizenship
Week 8 中間試験
Week 9 ～ 14 Topics for Global Citizenship
Week 15 期末試験

【履修上の注意事項】

最初の週にテストを行うので、英和辞典を持参すること。

【評価方法】

出席状況と試験の結果をあわせて評価します。

【テキスト】

David Peaty. Topics for Global Citizenship (金星堂 2005)

【参考文献】

英和辞典

外書講読Ⅱ

担当教員 島袋 栄一

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

環境問題に関する英文の読解を通して、環境政策に関する基本的な用語の理解を深める。
レイチェル・カーソンが『沈黙の春』を書き上げるまでの経緯について書かれたテキストなどを読解しその内容について各自が訳出していく。

【授業の展開計画】

Week 1 講義内容の説明
Week 2～9 Beyond "Silent Spring"
Week 10 中間試験
Week 11～14 環境問題等に関する英文
Week 15 期末試験

【履修上の注意事項】

英和辞典必携

【評価方法】

出席状況と試験の結果をあわせて評価します。

【テキスト】

- ①安藤富雄、Michelle Potter. Beyond "Silent Spring" (三友社出版 1997)
- ②その他 (講義中に案内します)

【参考文献】

随時案内します。

基礎演習

担当教員 渡久地 朝央

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

大学での勉学を行うために必要な基礎を学びます。レポート作成の方法から論文の読み方，サーベイ方法，調査方法まで幅広く行いますが，特に文章の要約，推測方法，伝達能力の訓練になるよう授業を行います。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	前期基礎演習の進め方について	17	後期基礎演習の進め方について
2	論文の読み方	18	課題と仮説の立て方について
3	サーベイ方法について	19	論文サーベイの方法
4	文章の書き方	20	実態調査の方法とその事例
5	レジュメの書き方－書評・論評	21	推測方法について
6	レジュメ作成1	22	グループ単位での課題設定
7	レジュメ作成2	23	グループ単位での課題発表1
8	レジュメ報告1	24	グループ単位での課題発表2
9	レジュメ報告2	25	プレゼンテーションの例
10	パワーポイントを用いた資料の作り方	26	レポート作成1
11	パワーポイントによる資料作成1	27	レポート作成2
12	パワーポイントによる資料作成2	28	レポート作成3
13	プレゼンテーションの方法について	29	レポート報告1
14	パワーポイントによる資料の報告1	30	レポート報告2
15	パワーポイントによる資料の報告2	31	レポート提出
16	前期基礎演習の総括		

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席，レジュメ及びレポートの提出により評価を行う。

【テキスト】

【参考文献】

基礎演習

担当教員 永田（島袋） 伊津子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

大学生生活に適応し、教員、学生同士のコミュニケーションを深める。
論文やレポート、レジュメの書き方を学ぶ。
プレゼンテーション能力を高める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス、スカベンジャー（1）	17	ガイダンス（後期）
2	スカベンジャー（2）	18	プレゼンテーション（1）
3	「大学生活ナビ」個人発表	19	プレゼンテーション（2）
4	図書館オリエンテーション	20	プレゼンテーション（3）
5	プレゼンテーション練習－他者紹介－	21	小論文の書き方（1）
6	グループ学習（1）レジュメ作成	22	小論文の書き方（2）
7	グループ学習（2）レジュメ作成	23	小論文の書き方（3）
8	グループ学習（3）報告会	24	学外演習（後期）
9	学外演習（前期）	25	スライドを使ったプレゼンテーション（1）
10	国際交流セミナー	26	スライドを使ったプレゼンテーション（2）
11	レポートの書き方（1）	27	スライドを使ったプレゼンテーション（3）
12	レポートの書き方（2）	28	ディベート（1）
13	レポートの書き方（3）	29	ディベート（2）
14	キャリアセミナー（前期）	30	ディベート（3）
15	個人面談（1）	31	キャリアセミナー（後期）
16	個人面談（2）		

【履修上の注意事項】

特になし。

【評価方法】

2/3以上の出席、報告・レポート提出を単位取得の最低条件とする。

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

適宜指示する。

基礎演習

担当教員 砂川 かおり

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

大学生活に適応し、教員、学生同士のコミュニケーションを深める。
論文やレポート、レジュメの書き方を学ぶ。プレゼンテーション能力を高める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス、スカベンジャー（1）	17	ガイダンス（後期）
2	スカベンジャー（2）	18	目標設定に関するDVD鑑賞
3	「大学生活ナビ」個人発表	19	DVDの要約・感想・目標の発表（1）
4	図書館オリエンテーション	20	DVDの要約・感想・目標の発表（2）
5	プレゼンテーション練習－他者紹介－	21	スライドを使ったプレゼンテーション（1）
6	グループ学習（1）レジュメ作成	22	スライドを使ったプレゼンテーション（2）
7	グループ学習（2）レジュメ作成	23	スライドを使ったプレゼンテーション（3）
8	グループ学習（3）報告会	24	学外演習（後期）
9	学外演習（前期）	25	小論文の書き方（1）
10	国際交流セミナー	26	小論文の書き方（2）
11	レポートの書き方（1）	27	小論文の書き方（3）
12	レポートの書き方（2）	28	ディスカッション（1）
13	レポートの書き方（3）	29	ディスカッション（2）
14	キャリアセミナー（前期）	30	ディスカッション（3）
15	個人面談（1）	31	キャリアセミナー（後期）
16	個人面談（2）		

【履修上の注意事項】

【評価方法】

2/3以上の出席、報告・レポート提出を単位取得の最低条件とする。

【テキスト】

特になし。適宜資料を配付する。

【参考文献】

適宜、紹介する。

基礎演習

担当教員 根路銘 もえ子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

学生間および教員とのコミュニケーションの場であり、相互の理解を深めるとともに、大学生としての必要なスキル（情報収集能力・読解力・文章作成能力・プレゼンテーション能力等）を身につけることを目的とする。

【授業の展開計画】

講義計画は以下の通りだが、適宜実施する回および内容については変更の可能性はある。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス（前期）	17	ガイダンス（後期）
2	スカベンジャーハント	18	プレゼンテーション（1）
3	「大学生活ナビ」課題発表	19	プレゼンテーション（2）
4	図書館オリエンテーション	20	プレゼンテーション（3）
5	プレゼンテーション練習-他者紹介-	21	小論文の書き方（1）
6	学外演習（前期）	22	小論文の書き方（2）
7	グループ学習（1）レジュメ作成	23	小論文の書き方（3）
8	グループ学習（2）レジュメ作成	24	学外演習（後期）
9	グループ学習（3）報告会	25	PowerPointによるプレゼンテーション（1）
10	国際交流セミナー	26	PowerPointによるプレゼンテーション（2）
11	レポート作成（1）	27	PowerPointによるプレゼンテーション（3）
12	レポート作成（2）	28	ディベート（1）
13	レポート作成（3）	29	ディベート（2）
14	キャリアセミナー（前期）	30	ディベート（3）
15	個人面談（1）	31	キャリアセミナー（後期）まとめ
16	個人面談（2）まとめ		

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席状況、レポートおよび発表内容を総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献】

参考文献は適宜紹介する。また、参考資料は適宜配布する。

基礎演習

担当教員 前泊 博盛

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

経済を学ぶための基礎演習です。ブックレット「もっと知りたい！本当の沖縄」をテキストに、私たちが住んでいる沖縄の歴史、文化、地理、そして経済環境、基地経済、基地問題などを概観します。その上で、各ゼミ生の関心を基に調査研究テーマを選定し、フィールドワークも交えながら調査研究の手法を学びます。

【授業の展開計画】

【前期】

- 1：演習の進め方
- 2：個別テーマの選定、グループ分け
- 3：テーマ研究と報告①
- 4：テーマ研究と報告②
- 5：テーマ研究と報告③
- 6：テーマ研究と報告④
- 7：テーマ研究と報告⑤
- 8：テーマ研究と報告⑥
- 9：テーマ研究と報告⑦
- 10：ディベート研究（ディベートの基本）
- 11：ディベート研究①
- 12：ディベート研究②
- 13：ディベート研究③
- 14：ディベート研究④
- 15：前期総括
- 16：レポート提出

【後期】

- 1：演習の進め方
- 2：個別テーマの選定、グループ分け
- 3：テーマ研究と報告①
- 4：テーマ研究と報告②
- 5：テーマ研究と報告③
- 6：テーマ研究と報告④
- 7：テーマ研究と報告⑤
- 8：テーマ研究と報告⑥
- 9：テーマ研究と報告⑦
- 10：ディベート研究（ディベートの基本）
- 11：ディベート研究①
- 12：ディベート研究②
- 13：ディベート研究③
- 14：ディベート研究④
- 15：後期総括
- 16：レポート提出

【履修上の注意事項】

毎日、新聞を読むこと。経済の基本書を熟読すること。

【評価方法】

課題（レポート）の提出、出席状況で総合的に評価を行う。

【テキスト】

（前期）岩波ブックレット『もっと知りたい！本当の沖縄』（前泊博盛著、岩波書店）

（後期）『検証 沖縄問題－復帰後30年の現状と展望』（百瀬恵夫、前泊博盛著、東洋経済新報社）

【参考文献】

（前期）検証 沖縄問題／百瀬恵夫・前泊博盛著／東洋経済新報社

（後期）沖縄振興開発計画（沖縄開発庁）、「沖縄振興計画」（内閣府）など

基礎演習

担当教員 上江洲 薫

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

学生間及び教員とのコミュニケーションの場を提供し、相互の理解を深めるとともに、文献や資料などの基本的な読解力、情報収集能力、分析力、読図力、統括力および現場の見る目、基本的なプレゼンテーションの能力をつける。

【授業の展開計画】

前期は、①受講生の相互理解を図るため、受講生間での聞き取り調査、②レジュメの書き方、③レポートの作成方法、④環境・地域経済に関するキーワードをグループで調査・要約し、報告を行う。後期は、①受講生が各自で、興味のある企業の特徴・動向を報告・ディスカッションを行う。②地図の読み方、また、読図力を活かして、巡検（野外実習）を行い、地域性および地域資源の発見を試みる。③「環境政策」か「地域経済政策」のいずれかをテーマにして、政策提言をグループで行う。

- | | |
|---------------------|------------------------|
| 1 前期ガイダンス・研究室案内 | 17 後期ガイダンス |
| 2 スカベンジャーハント（学内探索） | 18 企業研究の報告・ディスカッション①作成 |
| 3 「大学生生活ナビ」課題の発表 | 19 企業研究の報告・ディスカッション②作成 |
| 4 図書館オリエンテーション | 20 企業研究の報告・ディスカッション①発表 |
| 5 他己紹介 | 21 企業研究の報告・ディスカッション②発表 |
| 6 相互交流（学外でのスポーツ交流） | 22 地形図の読図 |
| 7 グループ学習：レジュメ作成Ⅰ作業① | 23 レポートの作成方法（野外調査版） |
| 8 グループ学習：レジュメ作成Ⅰ作業② | 24 巡検（宜野湾市内） |
| 9 グループ学習：レジュメ作成Ⅱ発表 | 25 巡検レポートの作成・提出 |
| 10 海外留学・国際交流の説明 | 26 政策提言のパワーポイント作成① |
| 11 個人レポートの作成① | 27 政策提言のパワーポイント作成② |
| 12 個人レポートの作成② | 28 政策提言のパワーポイント作成③ |
| 13 個人レポートの作成③ | 29 政策提言発表・ディスカッション① |
| 14 キャリアセミナー | 30 政策提言発表・ディスカッション② |
| 15 個人面談① | 31 政策提言発表・ディスカッション③ |
| 16 個人面談②、まとめ | 32 まとめ（受講生の達成度と反省・今後） |

【履修上の注意事項】

巡検では4・5校時で連続講義になることある。初回のガイダンスには発表の順番を決定するため必ず出席して下さい。

【評価方法】

成績評価は出席・講義への参加姿勢（30点）やレポート・作業物の提出（40点）、発表（30点）で判断する。出席重視。提出物を未提出や発表を実施しなかった場合、大きな減点を行う。

【テキスト】

特に指定しない。参考資料は適時配布する。

【参考文献】

伊藤義之（2005）『はじめてのレポート』、嵯峨野書院。学習技術研究会編（2002）『知へのステッパー大学生からのスタディ・スキルズ』、くろしお出版

基礎演習

担当教員 山川（矢敷） 彩子

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

基礎演習のねらいは、新入生と教員がコミュニケーションを深めながら、大学生としての必要なスキル（情報収集能力・読解力・文章作成能力・プレゼンテーション能力）を養うことである。最終的には、個人でレポートを作成し、レジュメを作成した上、コンピュータプレゼンテーションをすることを旨とする。二年次以降の学生が登録を希望する場合は、事前に相談すること。

【授業の展開計画】

基本的に以下のスケジュールで実施するが適宜内容と順番は変更することがある。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス・自己紹介等	17	ガイダンス・課題の配布
2	図書館オリエンテーション	18	グループワーク（日本の電力）
3	1年生向けキャリアガイダンス	19	グループワーク発表(1)
4	交流ゲーム	20	グループワーク発表(2)
5	グループワーク（沖縄の自然を知る）	21	フィールドワーク(牧港火力発電所)
6	グループワーク発表(1)	22	レポート作成(危険生物・外来生物)
7	グループワーク発表(2)	23	レポート作成
8	フィールドワーク(宜野湾市立博物館)	24	レジュメ作成
9	フィールドワーク(宜野湾市内)	25	パワーポイント作成(1)
10	フィールドワークレポート提出	26	パワーポイント作成(2)
11	レジュメ作成(宜野湾市に関する調べ学習)	27	先輩学生との交流ゼミ
12	レジュメ作成	28	プレゼンテーションと質疑応答(1)
13	レジュメ発表(1)	29	プレゼンテーションと質疑応答(2)
14	レジュメ発表(2)	30	プレゼンテーションと質疑応答(3)
15	レジュメ発表(3)	31	プレゼンテーションと質疑応答(4)
16	予備日		

【履修上の注意事項】

欠席する場合には、事前に必ず連絡をすること。メールによる連絡を受け付ける。
二年次以降の学生が登録を希望する場合は、事前に相談すること。

【評価方法】

単位取得には、3分の2以上の出席、課題（レポート、レジュメ）の提出、およびプレゼンテーションの実施が必須である。評価は、ゼミにおける発言の内容やレポート、プレゼンテーションの内容により総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは指定しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

基礎演習

担当教員 上江洲 律子

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

学生間および教員とのコミュニケーションの場を提供し、相互の理解を深めながら、大学生にとって必要な5つの力「読む力」「聞く力」「考える力」「書く力」「話す力」を身につけることを目標とします。

【授業の展開計画】

前期期間：インタビューなどの「話された言葉」や、雑誌の記事などの「書かれた言葉」のポイントをまとめることから始め、指定されたテーマに従ったレポート作成を行いながら、書くプレゼンテーション（プレゼン）の能力を高めます。

後期期間：学生の方々は、それぞれの興味を生かしたテーマ設定に従い、主に、図書館で情報を収集、分析し、まとめ、配付用の資料を作成し、実際に口頭での発表を行うことで、話すプレゼンテーション（プレゼン）の力を身につけます。

前期期間

- 第01回：ガイダンスと自己紹介
- 第02回：スカベンジャー・グループ（1）
- 第03回：スカベンジャー・グループ（2）
- 第04回：未来図（大学編）の作成とメールのレッスン
- 第05回：他者紹介
- 第06回：図書館オリエンテーション
- 第07回：レジュメのレッスン・グループ（1）
- 第08回：レジュメのレッスン・グループ（2）
- 第09回：ノートテイクのレッスン
- 第10回：国際交流センターのレクチャーと留学生との交流
- 第11回：学外活動
- 第12回：書評のレッスン（1）
- 第13回：書評のレッスン（2）
- 第14回：書評のレッスン（3）
- 第15回：まとめとキャリア支援課のレクチャー

後期期間

- 第16回：ガイダンスと自己アピール
- 第17回：PPTプレゼン・グループ（1）
- 第18回：PPTプレゼン・グループ（2）
- 第19回：PPTプレゼン・グループ（3）
- 第20回：PPTプレゼン・グループ（4）
- 第21回：文化活動
- 第22回：レポート（1）
- 第23回：レポート（2）
- 第24回：レジュメ（1）
- 第25回：レジュメ（2）
- 第26回：PPTプレゼン（1）
- 第27回：PPTプレゼン（2）
- 第28回：PPTプレゼン（3）
- 第29回：PPTプレゼン（4）
- 第30回：PPTプレゼン（5）
- 第31回：まとめと先輩との交流

※ただし、図書館オリエンテーションや学外活動、文化活動の日程の変動に合わせて、多少の変更を行います。

【履修上の注意事項】

上に挙げた5つの力は、社会を生き抜く力でもあります。大学時代にその力を培えるように、学生の方々が、各自積極的に授業に参加することを要望します。

【評価方法】

出席および授業への参加姿勢（40%）、課題の提出やプレゼンの評価（60%）で評価します。

※単位取得のために、授業の3分の2以上の出席を義務付けます。

【テキスト】

授業内で必要に応じてプリントを配付します。

【参考文献】

・佐藤望編著・湯川武・横山千晶・近藤明彦著『アカデミック・スキルズ—大学生のための知的技術入門—』、慶應義塾大学出版会、2006年
 ※そのほか、授業内で必要に応じて紹介します。

キャリアデザイン論

担当教員 根路銘 もえ子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

様々な分野で活躍している先輩や経営者などにゲストとして来てもらい、話を聞きながらディスカッションを行う。就職意欲を高めることが本講義の目的である。

【授業の展開計画】

毎回ゲストを呼ぶ予定

【履修上の注意事項】

講義内容については初回講義時に知らせるため、履修希望者は初回講義時に確認すること。
なお、登録は2年次優先とし、空きがあれば他の学年も登録可能とする。

【評価方法】

出席およびレポートの提出状況を総合的に勘案して評価する。

【テキスト】

必要に応じて講義中に指示する。

【参考文献】

近代沖縄経済史

担当教員 前泊 博盛

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

琉球国時代から琉球処分後の明治・大正・昭和初期（戦前）までの沖縄経済史を概観します。琉球国時代の農業経済、財政、貿易政策はいったいどのようなものであったのか。琉球国の経済政策、住民の経済状況、大交易時代の実情、「万国津梁」の中身、南蛮人と琉球人、「琉球処分」後の明治政府の下での沖縄振興計画、移民政策など現在の沖縄経済の「源流」をを総括します。温故知新を基本に、本当の沖縄経済をし知るための基本を学びます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義の進め方
2	沖縄経済史の特徴－後進性、零細性、従属性
3	近世沖縄の経済構造
4	首里王府の財政
5	「琉球処分」と沖縄経済
6	明治政府の沖縄政策
7	旧慣制度下の農村経済の構造
8	商品経済の進展と「資本主義」生産様式の形成
9	沖縄経済の近代化
10	農林水産業の近代化
11	商工業の発展
12	第一次世界大戦と沖縄経済
13	戦後恐慌と沖縄経済
14	「そてつ地獄」と昭和恐慌
15	沖縄振興計画と戦時統制経済
16	前期試験

【履修上の注意事項】

出席を重視します。筆力と質問力を高めるために、毎回、レポート、感想、質問を提出していただきます。

【評価方法】

講義時の感想、質問、ミニテスト、最終試験で評価します。

【テキスト】

毎回、講義時にプリントを配布します。

【参考文献】

その都度、紹介する。

金融論 I

担当教員 永田（島袋） 伊津子

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

金融の基礎的な知識を定着させることをねらいとする。金融論の初歩的な内容から学び、初心者にもわかりやすく解説するので、経済学の基礎科目を受講していない者でも理解できる内容である。将来、金融関係の職業を目指すものに受講を勧める。また、後期の「金融論Ⅱ」とセットで履修することでより理解が深まるだろう。教科書は指定しないが、金融論の教科書として出版されているものならば講義内容と大きくずれることはないので、各自読みやすいものを選び、復習することが望ましい。評価はほぼ毎回講義の最後に行う小テスト(50%)と、グループ報告(50%)による。報告テーマはガイダンスのときに指示する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	金融とは何か
3	企業の金融行動
4	家計の金融行動
5	政府の金融行動
6	金融機関・金融市場
7	わが国の金融制度（1）
8	わが国の金融制度（2）
9	金融のミクロ理論（1）
10	金融のミクロ理論（2）
11	金融政策（1）
12	金融政策（2）
13	グループ報告会（1）
14	グループ報告会（2）
15	グループ報告会（3）
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- ・講義内容は変更することがあります。
- ・後期開講の「金融論Ⅱ」は「金融論Ⅰ」の知識を前提として進めます。
- ・「国際金融論Ⅰ・Ⅱ」、「ファイナンシャルプランニング」、「証券市場論Ⅰ・Ⅱ」を併せて履修することをおすすめします。

【評価方法】

小テスト(50%)、グループ報告(50%)

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

「入門金融」吉野直行・高月昭年(編著) 有斐閣
「エコノミクス入門金融」池尾和人(編著) ダイヤモンド社

金融論Ⅱ

担当教員 永田（島袋） 伊津子

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

金融の発展的・実地的な知識を定着させることをねらいとする。前期の「金融論Ⅰ」で学んだ知識を前提として進める。ニュースや新聞記事で扱われる現実的な金融に関する話題の背景を理解し、経済学的視点から考察する練習を行う。評価は、毎回実施する小テスト(50%)と、個人発表(50%)による。発表は各自で金融に関する新聞記事を引用して、その内容と背景について説明すること。将来、金融関係の職業を目指す者に受講を勧める。この講義をきっかけに受講者が社会問題に対して興味を持ち、学問的知識を裏付けとして自分の考えを持つ人材に育てて欲しい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	企業の資本構成と企業価値
3	株主体のガバナンスと銀行主体のガバナンス
4	金融市場の基本設備－証券取引所・法制度－
5	金融市場の基本設備－規制監督・情報提供機関－
6	政策金融
7	新しい金融手法と家計の資産選択
8	情報化の進展と金融業
9	日本銀行と金融政策（1）
10	日本銀行と金融政策（2）
11	保険の基礎知識
12	社会人になる前に知っておきたい金融知識（学外講師による講演）
13	報告会
14	報告会
15	報告会
16	予備日

【履修上の注意事項】

- ・講義内容は変更することがあります。
- ・「金融論Ⅱ」は、前期開講の「金融論Ⅰ」の知識を前提として進めます。
- ・「国際金融論Ⅰ・Ⅱ」、「ファイナンシャルプランニング」、「証券市場論Ⅰ・Ⅱ」を併せて履修することをおすすめします。

【評価方法】

- 評価 小テスト50点+ 報告50点 =計100点
- 小テスト 講義の最後にほぼ毎回行う。
- 報告 一人1回、講義に関連する新聞記事を各自で用意してその解説を行う。

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献】

- 「入門金融」 吉野直行・高月昭年（編著）有斐閣
- 「エコノミクス入門金融論」 池尾和人（編著）ダイヤモンド社

経済学入門 I

担当教員 呉 錫畢

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

人々は、つねに経済活動を行う。これは動物とは異なる大きな特徴でもある。ところで、経済活動とは何か、簡単に言えばモノを買う、即ち消費、モノを売る、即ち生産して売買のことである。なぜ、このような経済活動を行うのか、お金なしでモノを手に入れることができない理由は？その理由に資源には限りがあり、また人間の欲望は無限であるので、制限する必要があるのだ。ここで、資源をいかに生産・配分し、人々に満足を与えることができるのか、つまり、本講義は経済学の最も基礎的な知識を身に付けることが目的である。

【授業の展開計画】

- 1週目：経済学とは何か 1
- 2週目：経済システムとは
- 3週目：資本主義と自由企業
- 4週目：需要とは何か
- 5週目：需要の法則
- 6週目：供給とは何か
- 7週目：供給と費用の役割
- 8週目：シグナルとしての価格
- 9週目：価格システム
- 10週目：競争と市場構造
- 11週目：市場の失敗と政府の役割
- 12週目：日本経済と国際経済
- 13週目：世界的資源需要
- 14週目：世界経済の課題
- 15週目：経済学とは何か 2
- 16週目：期末試験

【履修上の注意事項】

講義を聴いている人に迷惑をかけること。

【評価方法】

期末試験、レポート、出欠等を参照

【テキスト】

ゲーリーE.クレイトン、大和証券訳（2005）『アメリカの高校生が学ぶ経済学』、WAVE出版。

【参考文献】

東京大学赤門Economist（2005）『東大生が書いたやさしい経済の教科書』、インデックスコミュニケーションズ。
J.E.スティグリッツら（2005）『スティグリッツ入門経済学〈第3版〉』、東洋経済新報社。

経済学入門Ⅱ

担当教員 永田（島袋） 伊津子

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

入門的な経済学を学び、専門科目、応用科目をよりスムーズに理解するために、必要な基礎知識を定着させることをねらいとする。この講義を受講して、私たちの身近な問題が経済と深くつながり、皆さんの将来にも大きく影響することを理解して欲しい。また、経済学的な思考、視点を身に付け、自らの生活に活かしてもらいたい。本講義をより詳しく学びたい者に、2年次で専門科目「マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」を受講することを勧める。教科書は「アメリカの高校生が学ぶ経済学」ゲーリー・E・クレイトン（著）とする（各自購入）。グループ報告で使用する教科書は「日本はなぜ貧しい人が多いのか」原田泰（著）とする（図書館在架）。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	テキスト第7章
3	テキスト第8章
4	テキスト第9章
5	テキスト第10章
6	テキスト第11章
7	テキスト第12章
8	テキスト第13章
9	テキスト第14章
10	テキスト第15章
11	テキスト第16章
12	グループ報告（1）
13	グループ報告（2）
14	グループ報告（3）
15	グループ報告（4）
16	グループ報告（5）

【履修上の注意事項】

講義の時、テキストを持参すること。

【評価方法】

グループ報告とレポート、出欠状況を総合的に評価する。

【テキスト】

「アメリカの高校生が学ぶ経済学」ゲーリー・E・クレイトン（著）2008年、WAVE出版、2400円＋税

【参考文献】

適宜指導する。

経済数学 I

担当教員 根路銘 もえ子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、経済学で使われる数学を初歩の基本的課題から応用分野までを解説する。練習問題を解くことにより、経済学に必要な数学の知識を身につける。

「経済数学I」では、行列や行列式等の線形代数について学習する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス・行列とは
2	いろいろな行列
3	行列の計算法
4	逆行列
5	連立方程式の解法(1)
6	線形空間(1)
7	線形空間(2)
8	線形空間(3)
9	行列式
10	余因子展開
11	掃き出し法(1)
12	掃き出し法(2)
13	連立方程式の解法(2)
14	経済学への応用(1)
15	経済学への応用(2)
16	期末試験

【履修上の注意事項】

地域環境政策学科・1年次対象科目。講義は段階的に進めるので、講義内容を理解してもらうためにも出席を重視する。1年次の選択科目であるため1年次優先。空きがあれば、他年次の学生の登録も可能とする。

【評価方法】

出席状況、講義中の問題解答、試験を総合的に評価する。

【テキスト】

レジメを配布し、講義中に板書を行う。また、練習問題を配布する。

【参考文献】

「初歩からの経済数学（第2版）」，三土修平，日本評論社，1996。「経済数学」，藤田渉，勁草書房。他講義時に紹介する。

経済数学Ⅱ

担当教員 根路銘 もえ子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、経済学で使われる数学を初歩の基本的課題から応用分野までを解説する。練習問題を解くことにより、経済学に必要な数学の知識を身につける。

「経済数学II」では、経済学で扱われる関数について学び、微分法の基礎を習得する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス・微分とは
2	いろいろな関数と逆関数
3	指数関数と対数関数
4	極限值
5	導関数
6	微分(1)
7	微分(2)
8	微分(3)
9	関数の増減
10	経済学への応用(1)
11	経済学への応用(2)
12	偏微分
13	高階偏導関数
14	全微分
15	条件付最大化問題
16	期末試験

【履修上の注意事項】

地域環境政策学科・1年次対象科目。講義は段階的に進めるので、講義内容を理解してもらうためにも出席を重視する。1年次の選択科目であるため1年次優先。空きがあれば、他年次の学生の登録も可能とする。

【評価方法】

出席状況、講義中の問題解答、試験を総合的に評価する。

【テキスト】

レジメを配布し、講義中に板書を行う。また、練習問題を配布する。

【参考文献】

「初歩からの経済数学（第2版）」，三土修平，日本評論社，1996。「経済数学」，藤田渉，勁草書房。他講義時に紹介する。

経済地理 I

担当教員 小川 護

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

現代日本および世界における産業経済のありかたに「地域」という視点から分析を加えそこに内在する地域的な構造と問題点の様態を把握するとともに、その形成過程に関与する諸要因の一端を明らかにしようというのが本講義の目標である。経済地理 I では、経済地理学の課題について概観したあと、日本および沖縄、そして世界の農業地域の形成と構造および農業立地論についてやさしく考察していく予定である。適宜、関連資料の配付、ビデオ教材等の視聴覚教材も利用する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	経済地理学入門(1)
2	経済地理学入門(2)
3	日本の農業(1)
4	日本の農業(2)
5	沖縄の農業
6	世界の農業地域(1)
7	世界の農業地域(2)
8	世界の農業地域(3)
9	世界の農業地域(4)
10	農業立地論
11	世界の地域解発
12	日本の地域開発
13	農業と食糧問題
14	農業と環境問題
15	まとめ
16	テスト

【履修上の注意事項】

追試・再試は原則としておこなわない。試験は、配布プリント、自筆ノートのみ持ち込み可能で試験を行う。

【評価方法】

出席状況(授業回数の1/3以上出席)とレポートおよび試験結果で総合的に判断する。

【テキスト】

帝国書院『新詳高等地図』1575円、新詳 資料 地理の研究、B5判 344ページ 定価980円

【参考文献】

授業の中で適宜紹介する。

計量経済学 I

担当教員 友知 政樹

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義の目的は、多変量解析法のひとつである回帰分析を基軸に計量経済学の基礎を学ぶことである。具体的には、計量経済学の理論を理解すると同時に、実際のデータをエクセルなどの統計ソフトを利用しながら統計処理し、その方法ならびに結果の解釈についての理解を深めいく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	基本統計量とエクセル (1)
3	基本統計量とエクセル (2)
4	基本統計量とエクセル (3)
5	単回帰モデル (1)
6	単回帰モデル (2)
7	重回帰モデル (1)
8	重回帰モデル (2)
9	重回帰モデル (3)
10	回帰モデルの仮説検定 (1)
11	回帰モデルの仮説検定 (2)
12	ダミー変数 (1)
13	ダミー変数 (2)
14	総まとめ
15	最終試験
16	

【履修上の注意事項】

計量経済学 I・IIの両方を履修することが望ましい。

予め、環境統計学I・IIもしくは統計学I・IIを履修している方が望ましい。

予め、統計情報処理I・IIを履修している方が望ましい。

【評価方法】

・講義の評価は、出席状況、レポート、小テスト、最終試験などにより総合的に評価する。・出席回数が2/3に満たない者には単位を与えない。(公欠を除く)

【テキスト】

[例題で学ぶ] 初歩からの計量経済学、白砂堤津耶(著)、日本評論社(¥2,800+税)。

【参考文献】

・計量経済学、田中勝人(著)、岩波書店(¥2,100+税)。・計量経済学、山本拓(著)、新世社(¥3,300+税)。
・計量経済学、浅野哲・中村二郎(共著)、有斐閣(¥3,000+税)。

計量経済学Ⅱ

担当教員 友知 政樹

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義の目的は、多変量解析法のひとつである回帰分析を基軸に計量経済学の基礎を学ぶことである。具体的には、回帰分析における多重共線性や系列相関の問題の理解を深め、さらに連立方程式モデルや産業連関分析についても学ぶ。その際、実際のデータをエクセルなどの統計ソフトを利用しながら理解を深めていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	回帰モデルの復習 (1) 単回帰モデル
3	回帰モデルの復習 (2) 重回帰モデル
4	回帰モデルの復習 (3) ダミー変数
5	多重共線性 (1)
6	多重共線性 (2)
7	系列相関 (1)
8	系列相関 (2)
9	連立方程式モデル (1)
10	連立方程式モデル (2)
11	連立方程式モデル (3)
12	産業連関分析 (1)
13	産業連関分析 (2)
14	総まとめ
15	最終試験
16	

【履修上の注意事項】

計量経済学Ⅰ・Ⅱの両方を履修することが望ましい。

予め、環境統計学Ⅰ・Ⅱもしくは統計学Ⅰ・Ⅱを履修している方が望ましい。

予め、統計情報処理Ⅰ・Ⅱを履修している方が望ましい。

【評価方法】

- ・講義の評価は、出席状況、レポート、小テスト、最終試験などにより総合的に評価する。
- ・出席回数が2/3に満たない者には単位を与えない。(公欠を除く)

【テキスト】

[例題で学ぶ] 初歩からの計量経済学、白砂堤津耶(著)、日本評論社(¥2,800+税)。

【参考文献】

- ・計量経済学、田中勝人(著)、岩波書店(¥2,100+税)。
- ・計量経済学、山本拓(著)、新世社(¥3,300+税)。
- ・計量経済学、浅野哲・中村二郎(共著)、有斐閣(¥3,000+税)。

現代沖縄経済史

担当教員 前泊 博盛

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

沖縄の戦後経済史を概説し、現状と課題、展望を学びます。戦後の沖縄経済は無通貨時代から貨幣経済への移行、配給から自由経済へ、復興政策から振興政策への政策転換など、沖縄戦で壊滅した社会・教育・産業インフラを再整備するところから始まり、米軍統治下で自由な経済発展を許されない管理・統制型経済による米軍主導型経済となった。基地依存、公共事業依存などの3K経済の源流から復帰後の沖縄振興策、新6K経済の胎動までを整理し、現在の沖縄経済を学ぶ上での基本的な知識を習得します。適宜、学外ゲストを招き、実態経済について論議します。

【授業の展開計画】

【授業の展開計画】

- 1：講義の進め方
- 2：戦前沖縄経済の総括
- 3：沖縄戦と戦中・戦後経済
- 4：米軍統治と統制経済
- 5：戦後復興政策
- 6：米軍統治下の振興計画
- 7：さとうきびブームと糖業
- 8：復帰前の金融、財政、経済の総括
- 9：本土復帰時の沖縄経済
- 10：沖縄振興開発計画と産業政策
- 11：復帰特別措置による企業・産業振興
- 12：3K経済と沖縄振興策
- 13：新6K経済とポスト新振計
- 14：沖縄振興開発計画と沖縄振興政策
- 15：沖縄振興策の効果と課題
- 16：後期試験

【履修上の注意事項】

出席を重視します。筆力と質問力を高めるため、毎回、レポート、感想、質問を提出していただきます。

【評価方法】

毎回感想と質問を提出

【テキスト】

テキストは指定せず、毎回配布するプリントに沿って講義します。

【参考文献】

松田賀孝著「戦後沖縄社会経済史研究」（東大出版会）、牧野浩隆著「沖縄経済を考える」（新報出版印刷）南方同胞援護会編「沖縄の産業・経済報告集」（南方同胞援護会）ほか

交通経済論

担当教員 藤原 邦夫

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本科目では交通経済学の理論と政策について講義する。はじめに、交通の基礎的事項を、つぎに、理論的内容を取り上げる。理論的内容に関しては、授業時間数が少ないので、次の二つの項目にしぼって講義する。その項目とは、ひとつは交通需要であり、もうひとつは交通部門に対する政府の規制とその緩和である。これらの項目を選んだ理由は、これらが今日の交通の問題やあり方を考える上で重要であるからである。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	交通の定義と交通に類似する用語の定義
3	交通手段の歴史と交通技術
4	交通形態の変遷
5	交通の機能と意義
6	交通経済学とは何か
7	交通サービスとは何か
8	交通需要の意味と性質
9	交通需要に影響を与える要因
10	交通需要の弾力性とその計測値
11	交通政策の効果
12	財の性質にもとづく財の分類と交通サービスの位置づけ
13	交通部門に対する政府の介入の経済学的根拠
14	交通部門に対する政府の介入の実際と規制緩和
15	交通部門に対する政府の介入の実際と規制緩和
16	テスト

【履修上の注意事項】

毎回出席をとる。欠席を最小限にすること。授業中の私語を慎むこと。

【評価方法】

テストにもとづいておこなう。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献】

山内弘隆・竹内健蔵「交通経済学」有斐閣、藤井弥太郎・中条潮「現代交通政策」東京大学出版会、角本良平「新・交通論」白桃書房

交通と環境

担当教員 藤原 邦夫

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、交通が関係する環境問題について論じる。はじめに、交通公害を取り上げる。ここでは、交通公害のなかで自動車交通によって生ずる大気汚染と騒音の問題に焦点を絞り、その実態を示し、解決の方向を探る。つぎに、地球環境問題を取り上げる。ここでは、この問題のなかで地球温暖化問題に絞る。そして、地球温暖化に関係があるとみなされている温室効果ガス、とくに二酸化炭素を取り上げ、交通と二酸化炭素排出量増加との関係を示し、その背景そして二酸化炭素排出量抑制の方向について考える。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	自動車交通が関係する環境問題
3	大気汚染の現状
4	道路交通騒音の現状
5	環境研究における経済学の役割
6	自動車交通の社会的費用
7	経済学の立場からの交通公害の抑制策
8	経済学の立場からの交通公害の抑制策
9	経済学以外の立場からの交通公害の抑制策
10	地球温暖化
11	地球温暖化と交通の関係
12	地球温暖化と交通の関係
13	交通部門の二酸化炭素排出量の推移 の背景
14	交通部門の二酸化炭素排出量の抑制策
15	交通部門の二酸化炭素排出量の抑制策
16	テスト

【履修上の注意事項】

毎回出席をとる。欠席を最小限にすること。授業中の私語を慎むこと。

【評価方法】

テストにもとづいておこなう。

【テキスト】

使用しない。毎回詳しいレジュメを配布する。

【参考文献】

Button, K., Transport, the Environment and Economic Policy, Edward Elgar

国際経済論 I

担当教員 当銘 学

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

国の経済活動の領域は拡大し、もはや一国では経済が成り立たない。国際金融制度の歴史的変遷を概観し、米国を軸とする新たな世界経済の枠組みである、「ドル本位制」＝「IMF体制」、から貿易システムである「GATT～WTO体制」、そして「ニクソン・ショック」を契機とする「変動相場制」、乱高下する「為替レート」、「金利」、「為替」の変動に伴う「資本移動」、「為替投機」等の国際経済のキーワードを軸に歴史的・総括的に整理し理解することで世界経済の課題を考察する。

【授業の展開計画】

テキストに沿って講義を進める。関連するビデオや経済誌等の記事も活用する。

週	授 業 の 内 容
1	Introduction
2	グローバル経済と日本
3	グローバル化と日本経済構造
4	世界経済の潮流
5	戦後の国際経済体制
6	固定相場制から変動相場制へ
7	1980年代以降の世界経済
8	中間テスト
9	為替レートと日本経済
10	外国為替市場と為替レート
11	為替投機
12	外国為替市場への介入
13	為替レートの決定と変動の理論
14	現在における多様な通貨制度
15	総括
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

時事経済に関心をもつこと。テスト解答にはテキスト購入し、精読することが要求される。

【評価方法】

1000点満点 出席点：600点、テスト400点(中間・期末、各200点満点)
テストと出席状況、授業参加態度により総合的に評価する。

【テキスト】

『ゼミナール国際経済入門』 伊藤元重著 (日本経済新聞社出版)。テキスト購入は必須。

【参考文献】

『世界経済入門』 西川 潤著 (岩波新書出版)、 『世界に格差をバラ撒いたグローバリズムを正す』 ジョセフEスティグリッツ著 (徳間書店出版)など

国際経済論Ⅱ

担当教員 当銘 学

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

加速する経済のグローバル化。国境を越えた多様な経済活動、すなわち貿易・国際投資・資金移動・技術移転・多国籍企業などの動きを通して、変動し続ける国際経済の動向を分析し、そして世界経済の潮流の中の日本経済の位置づけを試みる、グローバル化に伴う「国際収支」変動による「経常収支」問題から「マクロ政策」と「資本移動」の関係を分析し、「市場統合」「通商問題」「WTO協定」「直接投資」等の国際経済のキーワードを軸に総合的に整理し理解することで世界経済の課題を考察する。

【授業の展開計画】

テキストに沿って講義を進める。関連するビデオや経済誌等の記事も活用する。

週	授 業 の 内 容
1	Introductionと前期の復習
2	国際化するマクロ経済
3	国際収支とはなにか
4	国際マクロ経済学
5	拡大する国際金融取引
6	累積債務問題
7	中間テスト
8	貿易の基礎理論
9	通商問題の変貌
10	産業構造の調整問題
11	規模の経済性のもとでの貿易
12	WTO体制の機能と課題
13	拡大する直接投資
14	直接投資の理論とインパクト
15	総括
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

時事経済に関心をもち、テスト解答にはテキスト購入し、精読することが要求される。

【評価方法】

1000点満点 出席点：600点、テスト400点(中間・期末、各200点満点)
テストと出席状況、授業参加態度により総合的に評価する。

【テキスト】

『ゼミナール国際経済入門』 伊藤元重著 (日本経済新聞社出版)。

【参考文献】

『世界経済入門』 西川 潤著 (岩波新書出版)、 『世界に格差をバラ撒いたグローバリズムを正す』 ジョセフEスティグリッツ著 (徳間書店出版) など

産業と環境

担当教員 山川（矢敷） 彩子

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

沖縄県は四方を海に囲まれた海洋島嶼県であり、産業はサービス産業などの第3次産業とともに、農林水産業の第1次産業も盛んである。本講義では、産業の中でも特に水産業と環境に関して学んでいくこととする。具体的には、沖縄の海岸環境、沖縄の水産業の歴史、サンゴ礁漁業と環境への負荷などについて、座学と巡検（糸満海人工房資料館見学）により理解を深める。本講義は最終年次においても追試および再試験は実施しないので登録の際気をつけること。

【授業の展開計画】

講義では基本的に以下の内容を実施するが、講義の順番や内容は変更することがある。

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	沖縄の海岸環境
3	沖縄の海岸開発 (1)
4	沖縄の海岸開発 (2)
5	沖縄のサンゴ礁漁業の歴史 (1) (貝類利用の歴史)
6	沖縄のサンゴ礁漁業の歴史 (2) (DVD鑑賞)
7	沖縄のサンゴ礁漁業の歴史 (3) (糸満売り～本土復帰)
8	学外巡検 (糸満海人工房・資料館)
9	沖縄の水産業 (1) (全般)
10	沖縄の水産業 (2) (獲る漁業)
11	沖縄の水産業 (3) (養殖漁業)
12	海外のサンゴ礁漁業と環境への負荷 (1)
13	海外のサンゴ礁漁業と環境への負荷 (2)
14	筆記試験
15	レポート作成
16	レポート提出

【履修上の注意事項】

登録調整期間の出席状況も評価に反映する。
 欠席理由に関わらず、3分の1以上の欠席は不可となる。
 出席で代筆が明らかとなった場合は不可となる。
 最終年次においても追試および再試験は実施しないので気をつけること。

【評価方法】

講義の際に毎回記入するフィードバックシート（意見、感想、質問）の内容、試験および発表の内容により総合的に評価する。3分の1以上の欠席、試験の欠席やレポート未提出の学生には単位を与えない。

【テキスト】

テキストは指定しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

産業連関論の応用

担当教員 渡久地 朝央

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

財やサービスといった各産業の経済の流れを表わす産業連関表について、詳細に説明していきます。授業では乗数効果や物質フローなど産業連関表を用いた応用方法を学びます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	産業連関表による分析の意義
2	地域間産業連関表について1
3	地域間産業連関表について2
4	産業連関表による経済波及効果について
5	経済波及効果と乗数効果1
6	経済波及効果と乗数効果2
7	Excelによる産業連関分析1
8	Excelによる産業連関分析2
9	物質フローと産業連関表
10	ライフサイクルアセスメント(LCA)について
11	環境分析用産業連関分析1
12	環境分析用産業連関分析2
13	産業連関表の応用1
14	産業連関表の応用2
15	産業連関分析と予想
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

中間試験、期末試験をもって評価を行う。

【テキスト】

【参考文献】

産業連関論の基礎

担当教員 渡久地 朝央

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

財やサービスといった各産業の経済の流れを表わす産業連関表について、見方や考え方について説明していきます。

また、授業ではExcelを用いて産業連関表による簡単な波及効果の算出方法を学びます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	産業連関表について
2	産業連関表の意義
3	国内の産業連関表の役割について
4	海外の産業連関表の役割について
5	産業連関分析のための準備－産業連関表の仕組み
6	産業連関分析のための準備－行列式について
7	競争輸入型産業連関表と非競争輸出型産業連関表
8	レオンチェフ逆行列について1
9	レオンチェフ逆行列について2
10	逆行列と波及効果の計算方法1
11	逆行列と波及効果の計算方法2
12	最終需要と波及効果について
13	産業連関分析の事例1
14	産業連関分析の事例2
15	付加価値波及効果について
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

中間試験，期末試験をもって評価を行う。

【テキスト】

【参考文献】

社会調査演習

担当教員 上江洲 薫

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本授業の目的は、受講生が社会調査のすべての段階を経験することによって、社会調査の理論と方法を体得することである。具体的には、沖縄の環境問題と地域社会を主要テーマに、少人数の単位のグループごとに詳細調査テーマを決定し、学内の学生や学外の事業社や地域住民などを対象に、量的調査や質的調査を実施し、収集したデータを分析した後に報告書を作成する。なお、この報告書は公開する。

【授業の展開計画】

以下の順序にしたがって社会調査法の実習をおこなう。①調査テーマの決定（4月）、②調査テーマに関する現状と課題調査（5月）、③調査テーマに関する既存のデータ分析（6月）、④調査企画書（対象者・対象地域等）の作成（6月）、⑤調査票の作成とサンプリングの実施（7～8月）、⑥調査の実施（9～10月）、⑦調査データの集計と分析、PASWの使用法（11月）、⑧調査報告書の作成（12～2月）

【履修上の注意事項】

原則としてオール出席を求める。本科目の登録は、社会調査論Ⅰと社会調査論Ⅱの試験を受けており、ⅠとⅡのうち少なくとも一方の科目の単位を取得している学生に限る。

【評価方法】

成績評価は教室での発表内容(30点)と調査報告書の水準(40点)、出席および講義への参加姿勢(30点)にもとづいておこなう。

【テキスト】

テキストを使用しない。また、配布資料を使用（A4ファアイルを用意すること）。

【参考文献】

大谷信介他編著（2005）『社会調査へのアプローチ—論理と方法—』（第2版）ミネルヴァ書房。盛山和夫（2004）『社会調査法入門』有斐閣。佐藤郁哉『フィールドワーク』（新曜社）

社会調査論 I

担当教員 上江洲 薫

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会事象の解明に用いられる調査方法の理論の基本的な内容を講義する。この方法を用いる調査を社会調査と呼び、社会調査を適用して実証分析をおこなう学問分野は広範囲にわたる。社会調査は実証分析のための重要な方法である。ここで学ぶ調査方法論の内容は、大別すれば次の3つになる。①どんなデータをとるか、②データをどのようにしてとるか、③集めたデータからどのようにして情報を引き出すか。社会調査論 I ではそれら3つについて解説する。必要に応じて、関連資料などの配布や学生による作業も行う。

【授業の展開計画】

1. 講義説明
2. 社会調査とは（社会調査の意味、意義、目的）
3. 社会調査の歴史
4. 社会調査の種類と用途
5. 社会調査の実例を検証（学術調査、世論調査、マーケティング・リサーチなど）
6. 社会調査の基本的ルール（調査上の倫理と注意事項）
7. テーマ設定と情報収集①（参考図書、新聞記事、インターネットなど）
8. テーマ設定と情報収集②（既存論文の収集）
9. テーマ設定と情報収集③（既存文献の分析とテーマ設定）
10. 既存の統計データの収集・分析①（官公統計の種類と特徴）
11. 既存の統計データの収集・分析②（データ収集と加工）
12. 量的調査（量的調査法の特徴と種類）
13. 質的調査①（質的調査の特徴と種類）
14. 質的調査②（聞き取り調査）
15. 質的調査③（参与観察法、ドキュメント分析）・まとめ
16. 試験

【履修上の注意事項】

途中退席や私語を繰り返す受講生は大きな減点とする。初回の講義から出席を取る。社会調査士の資格取得希望者は、出来るだけ2年次で単位を取得して欲しい。

【評価方法】

成績評価は出席・講義への参加姿勢（20点）や試験（40点）、作業物の提出（40点）で判断する。

【テキスト】

予定：大谷信介、他編著、『社会調査へのアプローチ—論理と方法—』（第2版）、ミネルヴァ書房、2005年
講義では、その都度レジュメ・資料等を配布する。

【参考文献】

原 純輔・浅川達人（2005）『社会調査』放送大学教育振興会。盛山和夫（2004）『社会調査法入門』有斐閣。
島崎哲彦編（2000）『社会調査の実際—統計調査の方法とデータの分析』学文社

社会調査論Ⅱ

担当教員 上江洲 薫

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会調査Ⅰにおいて、基本的事項を踏まえたうえで、社会調査（主に量的調査）によって収集した資料やデータを整理し、分析するための具体的な方法を解説する。そして、受講生が具体的に調査企画・設計、サンプリング、調査の実施、データの整理・集計・分析等の作業を通じて社会調査を学びます。実際に、グループ毎にテーマを設定し、調査票を作成後、調査を実施し、調査結果を発表してもらいます。なお、グループの人数は5名ですが、受講者人数によって変動することもあります。

【授業の展開計画】

1. 講義説明
2. 調査の企画・設計①（調査テーマの設定、仮説構成、概念の操作的定義）
3. 調査の企画・設計②（グループ学習—調査企画書を作成）
4. 調査票作成の実際①（調査票調査のプロセス、質問文の種類、ワーディングなど）
5. 調査票作成の実際②（選択肢作成と注意事項、調査票の構成要素）
6. サンプリングの論理と種類（乱数の発生と単純無作為抽出法、系統抽出法と層化抽出法）
7. 調査票を作成（グループごとに作成）
8. 調査の実施方法（調査票の配布・回収法、面接調査の仕方、依頼状の作成など）
9. 調査票調査の実施①（各グループによる配布・回収）
10. 調査票調査の実施②（各グループによる配布・回収）
11. 調査データの整理（エディティング、コーディング、データインプット、データクリーニング）
12. 集計：単純集計とクロス表の作成（グループ学習、簡単なデータの集計）
13. グループによるアンケート調査の成果報告①
14. グループによるアンケート調査の成果報告②
15. グループによるアンケート調査の成果報告③
16. まとめ（レポート提出）

【履修上の注意事項】

途中退席や私語を繰り返す受講生は大きな減点とする。初回の講義から出席を取る。社会調査士の資格取得希望者は、出来るだけ2年次で単位を取得して欲しい。

【評価方法】

レポート、テスト、受講態度、出席状況等を総合的に評価する。

【テキスト】

予定：大谷信介、他編著、『社会調査へのアプローチ—論理と方法—』（第2版）、ミネルヴァ書房、2005年
講義では、その都度レジュメ・資料等を配布する

【参考文献】

原 純輔・浅川達人（2005）『社会調査』放送大学教育振興会。盛山和夫（2004）『社会調査法入門』有斐閣。
島崎哲彦編（2000）『社会調査の実際—統計調査の方法とデータの分析』学文社

集落地理論 I

担当教員 濱里 正史

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

20世紀は都市化の世紀と言われるほど都市化が進行しており21世紀もこの傾向は続くと予測されている。したがって、都市について学ぶことは現代および未来の社会を学ぶことに通ずる。特に最近では環境問題が人類の現在と未来における最重要課題として浮上するなか、これに対処する実践の場としての集落・都市の在り方が問われている。本講義では、集落地理論のみならず人文・社会科学全般において重要な研究対象の1つである都市について地理学的視点を重視しながら特に「沖縄の都市と集落」及び「環境と都市」について学ぶことを目的とする

【授業の展開計画】

講義のテーマは大きく2つに分かれる。1つは「沖縄の都市と集落」である。具体的には、「沖縄コナベーション」、「沖縄における基地と都市形成」、「沖縄の都市開発と環境問題」などについて学んでいく。もう1つのテーマは「環境と都市」である。具体的には、「エネルギーと都市」、「自動車と都市」についてヨーロッパの事例を参考にしながら講義した後、環境先進国ドイツの「環境都市フライブルク」を事例に、環境対策の実践の場としての都市とそのまちづくりがどのようなものであるかを学んでいく。

回 内容

- 1 インTRODakション
- 2 沖縄コナベーション 1
- 3 沖縄コナベーション 2
- 4 沖縄における基地と都市形成 1
- 5 沖縄における基地と都市形成 2
- 6 沖縄における基地と都市形成 3
- 7 沖縄の都市開発と環境問題 1
- 8 沖縄の都市開発と環境問題 2
- 9 エネルギーと都市 1
- 10 エネルギーと都市 2
- 11 自動車と都市 1
- 12 自動車と都市 2
- 13 環境都市フライブルク 1
- 14 環境都市フライブルク 2
- 15 期末試験

【履修上の注意事項】

出席は取らないが、講義に出席しない限り試験は書けないことに注意すること

【評価方法】

試験およびレポートを総合的に評価する。

【テキスト】

授業は毎回配る配付資料を基に行う。

【参考文献】

テキストは特にないが参考文献については随時指示する。

集落地理論Ⅱ

担当教員 崎浜 靖

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

集落地理論Ⅱでは、集落の中でも「村落」の歴史地理に関する講義を行う予定である。とくに村落景観に関する講義については、絵図資料や地図資料の読解、空中写真を用いた分析方法、さらに、フィールドワークの方法に重点をおく。村落の社会経済的構造に関する講義については、これまでの沖縄村落研究の事例を、映像資料を用いて紹介し、地域史・民俗学の研究成果を盛り込んで講義を進める予定である。

【授業の展開計画】

- 1 村落地理学の研究史
- 2 村落と地図①－地形図の基礎－
- 3 村落と地図②－地形図の利用方法－
- 4 村落と地図③－空中写真の判読と利用方法－
- 5 村落と地図④－国土基本図と地籍図－
- 6 村落と地図⑤－古地図と絵図資料－
- 7 村落の景観①－地理学の景観概念と研究方法－
- 8 村落の景観②－沖縄村落の景観構造－
- 9 村落の景観③－景観研究の事例－
- 10 村落の景観④－景観調査の方法と実践－
- 11 村落の景観⑤－景観の政治性－
- 12 村落の社会構造①－沖縄村落の歴史地理－
- 13 村落の社会構造②－沖縄村落社会の過去と現実－
- 14 村落の社会構造③－村落社会調査の方法と実践－
- 15 沖縄村落における景観と社会組織の関係性－巡検－
- 16 期末試験

【履修上の注意事項】

地図帳を持参して講義に参加すること。課題提出と出席点を重視するので注意すること。

【評価方法】

期末試験と課題点、出席点により総合的に判断する。

【テキスト】

毎回、プリントを配布する。

【参考文献】

仲松弥秀著『神と村』 梟社
田里友哲著『論集 沖縄の集落研究』 離宇宙社

情報産業論

担当教員 根路銘 もえ子

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、情報産業について学習することによって、情報に関する広い視野を養い、情報産業の将来を展望する能力を身に付けることを目的とする。具体的には、情報産業への発展過程をはじめ、コンピュータ産業の現状、コンテンツ産業、メディア産業、インターネットビジネス、移動体通信および情報ビジネスについて学ぶことにより、今後の情報産業の動向や情報産業の発展が現代社会にどのような変化をもたらすのかについて考察する。仮登録者が登録上限数を上回った場合、「初回講義時」に抽選を行うため、登録希望者は必ず初回講義に出席すること。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス・情報産業とは
2	産業の流れ
3	通信インフラと電話ビジネス(1)
4	通信インフラと電話ビジネス(2)
5	通信インフラと電話ビジネス(3)
6	コンピュータおよび家庭用IT機器(1)
7	コンピュータおよび家庭用IT機器(2)
8	ユビキタス・コンピューティング(1)
9	ユビキタス・コンピューティング(2)
10	電子商取引
11	金融サービス
12	Webコンテンツ(1)
13	Webコンテンツ(2)
14	著作権とセキュリティ(1)
15	著作権とセキュリティ(2)
16	期末試験

【履修上の注意事項】

仮登録者が登録上限数を上回った場合、「初回講義時」に抽選を行う。仮登録人数に応じて、学年毎に登録上限数を同割合で設定し、抽選する。

【評価方法】

出席状況、レポート、試験を総合的に評価する。

【テキスト】

講義中にレジメを配布する。

【参考文献】

参考文献は講義時に紹介する。

情報社会論

担当教員 根路銘 もえ子

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義は、情報と社会の関係を学習することによって、情報社会について理解することを目的とする。特に、インターネットの仕組みや情報システムについて学習する。情報および情報化が果たしてきた役割を理解することによって、社会、生活、企業、経済などに与えている影響について考察する。仮登録者が登録上限数を上回った場合、「初回講義時」に抽選を行うため、登録希望者は必ず初回講義に出席すること。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス・情報社会とは
2	情報社会・情報と人間の関わり
3	コミュニケーションの概念
4	ユーザインターフェース
5	情報とネットワーク
6	情報ネットワークの通信プロトコル
7	情報ネットワークと管理
8	インターネットを支える仕組み
9	インターネット検索(1)
10	インターネット検索(2)
11	情報システム
12	社会基盤としての情報システム
13	情報社会におけるコミュニケーション(1)
14	情報社会におけるコミュニケーション(2)
15	情報科学技術の将来
16	期末試験

【履修上の注意事項】

仮登録者が登録上限数を上回った場合、「初回講義時」に抽選を行う。仮登録人数に応じて、学年毎に登録上限数を同割合で設定し抽選する。

【評価方法】

出席状況、レポート、試験を総合的に評価する。

【テキスト】

講義中にレジメを配布する。

【参考文献】

情報化白書（最新版）、情報通信白書（最新版）、IT社会のしくみ事典、谷口功著、メディア・テック出版、2006。情報と社会、川合慧（監修）、駒谷昇一（編著）、オーム社、2004。他講義時に紹介する。

情報処理概論

担当教員 松崎 大介

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、情報処理技術と計算機の基礎的な演算方法について講義し、これらの基礎を築くことを目的とする。具体的には、まず情報処理の概念と計算機の構造、およびその動作原理について学んでもらいたい。さらに、ファイルシステムおよびデータベースシステムの動作を理解し、これらのシステム運用に関し講義を行う。

【授業の展開計画】

- 1 インTRODダクシヨン（登録と講義計画）
- 2 情報の概念
- 3 情報処理と計算機
- 4 半導体と演算
- 5 計算機の原理
- 6 中央演算装置とメモリー
- 7 オペレーティングシステム
- 8 ファイルシステム
- 9 通信技術とネットワーク
- 10 データベース I
- 11 データベース II
- 12 情報化とシステム開発
- 13 システムの運用管理 I
- 14 システムの運用管理 II
- 15 まとめ
- 16 期末考査

【履修上の注意事項】

【評価方法】

主に期末試験に基づいて評価する。出席・レポートは補助的な評価対象とする。

【テキスト】

第一回目の講義で指示する。

【参考文献】

相田洋, 1995, 電子立国日本の自叙伝 (NHKライブラリー)
浅井宗海, 1999, 新コンピューター概論 (実教出版)

情報リテラシー演習

担当教員 -上原 和樹

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

高度情報化社会の現在、情報機器を有用な道具として活用できる能力が求められており、大学においても情報リテラシーは必須となっている。本講義では、コンピュータの基本的な知識および情報リテラシーの習得を目的としている。具体的には、電子メールの使用方法、インターネットの活用、レポート・論文作成に必要なワープロソフトウェアの操作方法、および、データ分析に必要な表計算ソフトウェアの基本操作、画像データ処理を主に学習する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス・グループウェアの使い方・日本語入力の実習
2	ワープロソフトウェアの基本操作 (1)
3	ワープロソフトウェアの基本操作 (2)
4	ワープロソフトウェアの基本操作 (3)
5	インターネットによる情報検索・画像データ処理 (1)
6	画像データ処理 (2)
7	表計算ソフトウェアの基本操作 (1)
8	表計算ソフトウェアの基本操作 (2)
9	表計算ソフトウェアの基本操作 (3)
10	発表資料作成ソフトウェアの基本操作 (1)
11	発表資料作成ソフトウェアの基本操作 (2)
12	表計算ソフトウェアの応用 (1)
13	表計算ソフトウェアの応用 (2)
14	表計算ソフトウェアの応用 (3)
15	文書の統合
16	期末試験

【履修上の注意事項】

地域環境政策学科・1年次対象科目。講義は段階的に進めるため、講義内容を理解してもらうためにも出席を重視する。1年次の必修科目であるため1年次優先。空きがあれば、他年次の学生の登録も可能とする。

【評価方法】

出席状況、課題内容、試験により総合的に評価する。

【テキスト】

講義中にレジメを配布する。

【参考文献】

開講時に紹介する。

情報リテラシー演習

担当教員 根路銘 もえ子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

高度情報化社会の現在、情報機器を有用な道具として活用できる能力が求められており、大学においても情報リテラシーは必須となっている。本講義では、コンピュータの基本的な知識および情報リテラシーの習得を目的としている。具体的には、電子メールの使用方法、インターネットの活用、レポート・論文作成に必要なワープロソフトウェアの操作方法、および、データ分析に必要な表計算ソフトウェアの基本操作、画像データ処理を主に学習する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス・グループウェアの使い方・日本語入力の練習
2	ワープロソフトウェアの基本操作 (1)
3	ワープロソフトウェアの基本操作 (2)
4	ワープロソフトウェアの基本操作 (3)
5	インターネットによる情報検索・画像データ処理 (1)
6	画像データ処理 (2)
7	表計算ソフトウェアの基本操作 (1)
8	表計算ソフトウェアの基本操作 (2)
9	表計算ソフトウェアの基本操作 (3)
10	発表資料作成ソフトウェアの基本操作 (1)
11	発表資料作成ソフトウェアの基本操作 (2)
12	表計算ソフトウェアの応用 (1)
13	表計算ソフトウェアの応用 (2)
14	表計算ソフトウェアの応用 (3)
15	文書の統合
16	期末試験

【履修上の注意事項】

地域環境政策学科・1年次対象科目。講義は段階的に進めるため、講義内容を理解してもらうためにも出席を重視する。1年次の必修科目であるため1年次優先。空きがあれば、他年次の学生の登録も可能とする。

【評価方法】

出席状況、課題内容、試験により総合的に評価する。

【テキスト】

講義中にレジメを配布する。

【参考文献】

開講時に紹介する。

人口食糧論

担当教員 小川 護

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

世界の諸地域をみると、人口の急激に増加しているアジアやアフリカ、ラテンアメリカなどの発展途上国の地域、逆に人口増加の停滞あるいは現象がみられるわが国をはじめアングロアメリカ、ヨーロッパなどの地域があげられる。同時に発展途上国では食糧問題が発生し、先進国では少子高齢化の問題などを抱えている。この授業では、これらの諸問題について考えていきたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	この授業の開始にあたって(オリエンテーション)
2	人の分布と変化を考える
3	人口の動体と構成
4	人口の構成
5	発展途上国の人口問題
6	先進地域の人口問題
7	日本の人口問題
8	食糧問題と農産物貿易問題
9	土地制度と農地改革
10	世界の主要農産物-1-
11	世界の主要農産物-2-
12	日本の農業
13	いのちの食べ方 (映像資料)
14	キングコーン (映像資料)
15	これからの人口と食糧問題を考える (まとめ)
16	テスト

【履修上の注意事項】

出席を重視するので休すまないこと。当授業の内容は中学社会・高校地歴科・公民科の内容との関連で掘り下げた中身となっているので、とくに教員志望の受講者を希望する。

【評価方法】

出席状況と；レポート、テストで総合的に判断する。

【テキスト】

帝国書院『新詳高等地図』 1,575円、『新詳資料地理の研究』980円
 毎回プリントを配布する。

【参考文献】

授業の中で適宜紹介する

政策金融論

担当教員 一玉那覇 通男

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本科目では、政府が特定の政策課題を達成するために、金融手段を通じて民間部門を誘導する活動である「政策金融」について講義する。はじめに政府の金融活動としての財政投融資の基礎的事項とその変遷について述べる。次に沖縄振興の政策課題に対応した「政策金融」の役割を踏まえ、その実務的対応を見ていく中から、最後に沖縄振興政策と政策金融改革が有する今後の課題について考える。沖縄の実体経済や金融に関する最新の事項についても適宜解説したい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	市場経済と政府の役割
3	財政投融資の仕組みと特徴
4	財政投融資の規模の変遷と財投改革
5	沖縄の実体経済
6	沖縄の金融構造
7	沖縄公庫の設立経緯と総合政策金融機能
8	沖縄振興政策の課題の変化と沖縄公庫の対応
9	観光産業振興と沖縄公庫
10	産業・社会資本整備と沖縄公庫
11	ベンチャー振興と事業再生
12	政策金融評価の内容
13	政策金融改革と沖縄の課題
14	期末試験（レポートを予定）
15	
16	

【履修上の注意事項】

なし

【評価方法】

出席状況及び試験成績（レポートを予定）を基本要素とし、授業中の発言等に現れる受講者の問題意識等を加点要素として、総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは使用せず、各回、講師作成パワーポイント資料を配付する。

【参考文献】

参考文献は必要に応じ、講義時に指定する。

生態学概論

担当教員 仲田 栄二

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

生態学は、現象をばらばらにほぐして、その一つ一つについて研究するというのではなく、あくまでも現象と現象とのあいだの関係をとらえようとする学問である。

本講義では、5から15までのテーマについては、主体-環境系の立場から論じる。受講生には生態学的思考、つまり正しい関係づけの上にたつ思考法を学んで欲しい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義の全体像について
2	生態学とは何か
3	五感と生態学
4	生態学と気候帯
5	海岸の生態学(1)
6	海岸の生態学(2)
7	里海の生態学
8	里山の生態学
9	湿地の生態学
10	放牧地の生態学
11	河畔林の生態学
12	農耕地の生態学
13	都市の生態学
14	照葉樹林の生態学(1)
15	照葉樹林の生態学(2)
16	期末試験

【履修上の注意事項】

追試・再試は行わない。

【評価方法】

評価はレポートまたは期末試験で判断する。

【テキスト】

指定しない。

【参考文献】

講義のなかで随時紹介する。

地域開発論

担当教員 高嶺 晃

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

地域開発論講義の進め方は、「ハードな整備からの視点」からのみではなく、「地域開発を取り巻くあらゆる環境（自然、生活、政治、経済、文化、教育など）」多岐にわたる視点から「地域開発とは何か」を講義する。

そこから「地域開発のあり方」についての「プレゼンテーション（提案の仕方）等」の仕方について学ぶ。

【授業の展開計画】

「新聞記事」等を利用し、問題提起と自己の考え方や視点を200字で説明し提出する。提出資料を分類し、学生を指名し説明させる。

提出資料を基に内容を分析し、学生の理解度を高めるサポートをする。その内容と「地域開発との関わり」を説明し、「プレゼンテーションに活かす方法論」に結びつける。

週	授 業 の 内 容
1	「地域開発論」の進め方の説明。レポート提出方法の説明。出席票提出の説明。
2	「新聞記事」を基にしたレポートに沿って「地域開発」の方法を講義する。
3	「新聞記事」を基にしたレポートに沿って「地域開発」の方法を講義する。
4	「新聞記事」を基にしたレポートに沿って「地域開発」の方法を講義する。
5	時事事項を基に「地域開発論」・学生レポートに沿って「地域開発」の方法を講義する。
6	「新聞記事」を基にしたレポートに沿って「地域開発」の方法を講義する。
7	「新聞記事」を基にしたレポートに沿って「地域開発」の方法を講義する。
8	「新聞記事」を基にしたレポートに沿って「地域開発」の方法を講義する。
9	「新聞記事」を基にしたレポートに沿って「地域開発」の方法を講義する。
10	時事事項を基に「地域開発論」・学生レポートに沿って「地域開発」の方法を講義する。
11	「新聞記事」を基にしたレポートに沿って「地域開発」の方法を講義する。
12	「新聞記事」を基にしたレポートに沿って「地域開発」の方法を講義する。
13	「新聞記事」を基にしたレポートに沿って「地域開発」の方法を講義する。
14	「新聞記事」を基にしたレポートに沿って「地域開発」の方法を講義する。
15	「新聞記事」を基にしたレポートに沿って「地域開発」の方法を講義する。
16	「新聞記事」を基にした800字レポート提出。

【履修上の注意事項】

新聞記事等の資料提出内容は、できるだけ授業展開になじむものであること。

【評価方法】

出席日数は、2分の1以上とし、提出資料により評価する。

なお最終提出資料の説明字数を800字とする。

【テキスト】

【参考文献】

「タイムisタイム」 高嶺 晃 著
「建設論壇 ① 1995年度」 沖縄建設新聞

地域経済学Ⅰ

担当教員 渡久地 朝央

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

地域経済学は地域におきる様々な現象について経済学を通して解明していく学問です。経済発展を目的に地域企業を対象とする産業組織論としての見方や地域の経済格差などを分析する公共経済学としての見方、地域環境を評価する環境経済学としての見方など横断的な分野でもあります。授業では身近な事例を交えながら、様々な視点から地域経済学を学びます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	地域経済学の対象と課題
2	地域経済と産業－産業連関表の見方
3	地域経済と産業－経済効果の計測
4	地域経済と産業－立地論の考え方
5	地域経済と産業－産業集積論の基礎
6	産業集積と都市集積
7	地域と産業構造－ペティ・クラークの考え方
8	地域と産業構造－経済循環と経済圏
9	地域と産業構造－地域的分業について
10	産業空間論の考え方－新産業空間論と新産業地域論
11	地域間の経済格差
12	地域経済と資源分配
13	地域における社会的厚生
14	地域経済と社会的選択
15	地域経済と意思決定
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

中間試験，期末試験をもって評価を行う。

【テキスト】

【参考文献】

H. アームストロング, J. テイラー 『地域経済学と地域政策』
 新庄浩二 『産業組織論』
 松原宏 『経済地理学－立地・地域・都市の理論』

地域経済学 I

担当教員 前泊 博盛

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

講義のキーワードは「グローバル」。経済のグローバル化の中で、地域経済がどのような影響を受け、生き残りや地域の成長、発展のために、どのような対策、対応策、政策を展開しているかを分析します。地域経済学の基本的な概念や研究手法を学びます。随時、地域としての「沖縄」にも論及しながら、「地域」についての具体的な事例研究を行います。

【授業の展開計画】

- 【1】 講義の進め方
- 【2】 地域経済学の目的と方法
- 【3】 地域経済学の概念
- 【4】 地域経済学の課題
- 【5】 日本の地域構造
- 【6】 産業構造の変化と地域構造
- 【7】 人口動態と地域構造
- 【8】 情報化・国際化と東京一極集中
- 【9】 地域経済と所得形成
- 【10】 地域所得の決定
- 【11】 地域成長の経済分析
- 【12】 需要主導型モデルと供給主導型モデル
- 【13】 地域間交易の理論
- 【14】 地域間格差と人口移動（日本の地域間格差）
- 【15】 経済発展と地域間格差
- 【16】 前期テスト

【履修上の注意事項】

出席を重視します。

【評価方法】

出席重視、毎回講義に対する「質問と感想」を提出（出席票に代える）してもらいます。その上で、期末テストの結果を加味して評価します。

【テキスト】

岡田知弘・川瀬光義ほか著「国際化時代の地域経済学」（有斐閣アルマ）
参考文献：山田浩之・徳岡一幸編「地域経済学入門」（有斐閣コンパクト）ほか

【参考文献】

地域経済学Ⅱ

担当教員 渡久地 朝央

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

地域経済学は地域における様々な現象について経済学を通して解明していく学問です。経済発展を目的に地域企業を対象とする産業組織論としての見方や地域の経済格差などを分析する公共経済学としての見方、地域環境を評価する環境経済学としての見方など横断的な分野でもあります。本授業は地域経済学Ⅰ（前期）の続きになります。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	地域経済と環境
2	地域経済と環境負荷
3	地域経済と環境コスト
4	地域の経済価値と環境価値
5	地域の環境評価
6	地域の景観価値－景観の捉え方
7	地域の景観価値－景観評価
8	地域の経済発展と景観
9	地域の文化的価値－文化的価値の捉え方
10	地域の文化的価値－文化的価値の評価方法
11	都市計画に基づく経済発展と環境保全
12	景観計画に基づく経済発展と環境保全
13	環境負荷と産業－環境産業連関表の考え方
14	環境負荷と産業－環境産業連関表の事例
15	地域経済の厚生と環境
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

中間試験，期末試験をもって評価を行う。

【テキスト】

【参考文献】

H. アームストロング, J. テイラー『地域経済学と地域政策』、新庄浩二『産業組織論』
松原宏『経済地理学－立地・地域・都市の理論』、栗山浩二『環境の価値と評価手法』

地域経済学Ⅱ

担当教員 前泊 博盛

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

講義のキーワードは「グローバル」。経済のグローバル化の中で、地域経済がどのような影響を受け、生き残りや地域の成長、発展のために、どのような対策、対応策、政策を展開しているかを分析することで、自らが住んでいる地域（沖縄）を深く理解することを講義の狙いとする。ローカル（地域）に根ざし、グローバル（地球規模）に思考し、行動する。そのための基礎知識、分析力、そして行動力を身につける。島嶼県・沖縄は、移民県でもあり、グローバルな発想と行動、展開の歴史を持つ。かつての琉球王国は大交易時代を謳歌し、万国津梁の精神を発揮したとされている。「グローバル」の時代を迎え、地域経済の動きを沖縄の動きも含めて概観する。

【授業の展開計画】

- 【1】 講義の進め方
- 【2】 地域経済学と沖縄の地域経済
- 【3】 地域とは（地域の概念）
- 【4】 地域経済学の課題
- 【5】 グローバリズムと地域経済（T P P問題）
- 【6】 地域経済の成長と不均衡発展
- 【7】 日本の地域構造
- 【8】 地域間格差
- 【9】 産業立地政策と地域経済（立地論の考え方）
- 【10】 国土開発計画（全総）と地域開発政策
- 【11】 全総と沖縄振興開発
- 【12】 産業構造の転換と地域経済構造
- 【13】 都市とは
- 【14】 東京一極集中と都市問題
- 【15】 土地問題と土地政策
- 【16】 交通政策と地域経済
- 【17】 後期テスト

【履修上の注意事項】

出席を重視します。地域経済学Ⅰと連動します。

【評価方法】

毎回講義に対する「質問と感想」を提出（出席票に代える）「質問と感想」＝需要と供給、双方向の講義を展開、筆力向上を目指すためのものです。

【テキスト】

岡田知弘・川瀬光義ほか著「国際化時代の地域経済学」（有斐閣アルマ）
参考文献：山田浩之・徳岡一幸編「地域経済学入門」（有斐閣コンパクト）

【参考文献】

地域経済書講読 I

担当教員 渡久地 朝央

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

地域経済の課題でもある様々な格差について考えていく。授業では所得格差や地域間格差，教育格差などについて，参考文献に掲載される論文を取り上げながら社会的厚生について勉強していく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	地域経済と格差問題について
2	雇用格差
3	所得格差 1
4	所得格差 2
5	教育格差 1
6	教育格差 2
7	地方と都市の格差
8	社会的厚生について
9	独占と資源配分
10	社会的費用と社会的便益
11	厚生経済学の考え方
12	厚生経済学と社会選択論
13	新厚生経済学の考え方
14	厚生経済学と新厚生経済学
15	授業総括
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

中間試験，期末試験をもって評価を行う。

【テキスト】

【参考文献】

伊藤元重『格差を考える』

地域経済書講読Ⅱ

担当教員 野崎 四郎

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

市場経済に潜む様々な不幸な要因を格差という名称のもとに一括されている。格差論議をより建設的にするために、若者の雇用、地域間所得格差、高齢者所得格差について、“市場の失敗”をもとに検討する。この講義を通して、格差の対応策について受講生とともにディスカッションしていきたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	格差論争を理解するために
2	格差理解のための統計 (1)
3	格差理解のための統計 (2)
4	格差理解のための統計 (3)
5	所得格差
6	雇用格差
7	教育の格差
8	若者の格差
9	地域間所得格差
10	米国における格差
11	貧困への格差 (1)
12	貧困への格差 (2)
13	貧困への格差 (3)
14	所得再分配政策
15	世代間所得格差
16	グローバル経済と格差問題

【履修上の注意事項】

出席を重視する。

【評価方法】

課題（レポート）の提出、テスト、ディスカッションで総合的に評価を行う。

【テキスト】

独自の教材をテキストとして使用する。講義開始時に配布する。

【参考文献】

「格差を考える」伊藤元重 日本経済新聞出版社2008年。「世代間格差ってなんだ」城繁幸・小黒一正・高橋良平 PHP新書。「孫は祖父より1億円損をする」島澤諭・山下努 朝日新書2009年。

地域経済特別講義Ⅱ（地域経済と社会）

担当教員 沼波 正

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考 夏期集中講義（世話役：前泊博盛）

開講時期 その他

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

アベノミクスの「三本の矢」に象徴される金融、財政、成長戦略など最近の動きを分析しながら、日本経済の特徴、課題、処方箋、そして沖縄経済の特徴や可能性を分析します。日銀マンとしてかかわってきた金融政策の役割や実際の政策、効果についても紹介します。沖縄経済についても、日銀那覇支店長の経験を踏まえて、その特徴や課題、展望を試みます。知っているようで知らない経済の常識、金融の常識、財政政策のしくみなどを経済を学ぶ学生たちに「基礎的な教養」として身に着けさせるのが講義の狙いです。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・・・講義の進め方
2	日本経済の概況①・・・日本経済の特徴
3	日本経済の概況②・・・日本経済の課題
4	日本経済の概況③・・・日本経済の展望
5	沖縄経済の概況①・・・沖縄経済の特徴
6	沖縄経済の概況②・・・沖縄経済の課題
7	沖縄経済の概況③・・・沖縄経済の展望
8	日本の金融政策①・・・金融政策とは
9	日本の金融政策②・・・金融政策のポイント
10	日本の金融政策③・・・これからの金融政策
11	アベノミクスの論点①・・・三本の矢＝金融緩和（2%物価上昇目標等）
12	アベノミクスの論点②・・・三本の矢＝財政政策（10兆円規模の緊急経済対策）
13	アベノミクスの論点③・・・三本の矢＝成長戦略（特区など規制緩和）
14	国際経済の動向①・・・ニューヨーク、ワシントンレポート
15	国際経済の動向②・・・グローバル経済と日本、そして沖縄
16	テスト（レポート・試験）

【履修上の注意事項】

毎回出席すること。

【評価方法】

出席とレポート、テストの成績で評価する。

【テキスト】

【参考文献】

沼波正著「私の見た沖縄経済—ある日銀マンの沖縄へのラブレター」（ひるぎ文庫945円）

地域セミナー

担当教員 前半：上江洲 薫、 後半：小川 護

対象学年 2年

開講時期 通年

単位区分 必

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

地域セミナーは、自然環境あるいは社会・経済に関するテーマについてゼミ形式で教室での授業を進めながら、同時に野外での巡検・地域学習(エクスカージョン)も実施し、実際の沖縄の自然のしくみや環境問題、地域経済(農業、観光、商業など)について自分の眼や耳、肌で感じ取り、考えていく。このセミナーは3年次からの演習Ⅰの基礎として位置づけている。

【授業の展開計画】

本講義では、前期を上江洲、後期を小川が担当する。前期は、「地域産業と地域活性化」をテーマに、2回の巡検(小雨決行)を行う。初回は金武町における基地門前町・エコツアー・河川の水質について、2回目には沖縄市か宜野湾市の中心市街地の活性化に関する巡検を行い、中心市街地の現状と課題を検証し、活性化の議論・提言を行う。後期は、「沖縄の地域特性を考察する」をテーマに、パソコンを使用した地図の作成方法、3回の巡検(野外実習)を行い、沖縄の地域特性を考察していく。巡検のテーマは、地形・水資源・農業とし、これらを深く考察している。

〈上江洲担当〉

1. 講義説明

2～3. 巡検の事前調査①：与えられたキーワードを調べて、巡検に備える。

4～5. 巡検の事前調査②：統計データをもとに表・グラフを作成し分析する

6. 1回目巡検(一日中)の予定ルート：金武町：基地門前町、金武大川、ネイチャー未来館など

7～8. 巡検レポート作成・提出

9. 商店街調査の課題対応に関する事前調査

10. 2回目巡検(半日)：中心市街地の現状調査

11～14. グループ学習：パワーポイントの作成と発表(調査内容の報告と提言)

15～16. 中心市街地の活性化のワークショップ(提言・議論など)、まとめ

〈小川担当〉

1. 地域セミナー(後半)のガイダンス

2～4. 地理情報システムをつかってオリジナルの地図をつくる

6～7. 沖縄の地形を巡る(7回日本島中南部における地形の巡検)

8～10. 沖縄の水資源について考える(10回目：沖縄の水資源についての巡検)

11～13. 沖縄の農業について考える(13回目：沖縄農業の巡検)

14～16. 身近な地域についての調査報告(当科目履修者の身近な地域について、各自テーマを決めて調査し報告する)とまとめ

【履修上の注意事項】

初回のガイダンスには授業内容の詳細や巡検の日程を決定しますので必ず出席して下さい。また、出席も取りません。特に出席を重視するので注意すること。

【評価方法】

成績評価は出席および講義への参加姿勢、発表内容、レポートなどにもとづいておこなう。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献】

参考文献は講義中に紹介する。

地域セミナー

担当教員 前半：永田伊津子、 後半：山川彩子

対象学年 2年

開講時期 通年

単位区分 必

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

地域セミナーは、沖縄県の地域経済や自然環境について、実際にフィールド（現地）に行って体験学習することが目的である。本セミナーでは、前期と後期で教員が交代するオムニバス形式で、地域経済については永田が、自然環境については山川が担当する。

【授業の展開計画】

本セミナーは以下の2つからなる。

- (1) 沖縄の地域経済の現場（永田担当）
事前学習を元にグループでテーマを設定し、沖縄の地域経済を支える現場で聞き取り調査を行う。事前学習を元に聞きとり対象を決める。主に産業を担う企業を中心に現場の声を聞き、再度聞きとった情報を踏まえてより深く分析する。分析内容をまとめてプレゼンテーションを行う。
- (2) 沖縄の自然環境や生物（山川担当）
沖縄の身近な場所にどのような生物が生息しているか調べ、生物の役割や体の構造について野外実習と室内実験から学ぶ。実習は週末に集中で実施する。実習地としては、浦添大公園や読谷村宇座海岸等があげられるが、天候や日程により随時変更する。実習後、データを処理・分析し考察を加えレポートとしてまとめる。

前期（永田担当）

- 第1週 ガイダンス
- 第2～5週 事前学習
- 第6～8週 フィールドワーク
- 第9～11週 聞き取り調査の結果を元に分析
- 第12～14週 フィールドワーク
- 第15週 研究発表

後期（山川担当）

- 第1週 ガイダンス
- 第2～3週 事前学習
- 第4週 フィールドワーク（教員引率）
- 第5～7週 グループ調査（各自調査）
- 第8～9週 レポート作成
- 第10～13週 沖縄の危険生物・外来生物についての調べ発表
- 第14週 フィールドワーク

【履修上の注意事項】

事前に割り振られた2年次のみ登録許可する。

【評価方法】

単位取得には、3分の2以上の出席、課題（レポート、レジメ）の提出が必須である。評価は、演習における発言の内容やレポートの内容により総合的に評価する。

【テキスト】

【参考文献】

地域セミナー

担当教員 前半：呉 錫畢、 後半：根路銘もえ子

対象学年 2年

開講時期 通年

単位区分 必

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業では、沖縄地域の自然環境及び社会環境に関する諸問題を検討する。授業は少人数ゼミ形式で行い、毎回、各自の発表テーマに沿いながら議論する。また、野外学習やデータ分析を行いながら、地域とかがわる諸問題に対して考察し、社会における問題意識が培われることを目標とする。

【授業の展開計画】

<前期>

- 第1週 地域セミナーに関するオリエンテーション
- 第2週 地域とは何かについて発表（Ⅰ）
- 第3週 地域とは何かについて発表（Ⅱ）
- 第4週 北部地域の経済状況グループで発表
- 第5.6週 北部地域の環境・基地問題についてグループで発表
- 第7.8週 北部地域の観光・経済についてグループで発表
- 第9週 北部地域の経済・環境・観光・基地についてディベート
- 第10週 沖縄経済振興における開発の功罪について概説（赤土流出を中心に）
- 第11週 基地から見る辺野古経済を質す
- 第12週 海洋博からみる沖縄経済と美瀬フクギ並木の環境価値
- 第13週 国頭村安波から観光経済の未来を探る
- 第14.15週 地域と経済に関するディベートⅠ.Ⅱ
- 第16週 地域発展の視点より総括

<後期>

- 第1週 講義説明およびフィールド調査日程調整
- 第2週 データに関する基礎知識1
- 第3週 データに関する基礎知識2
- 第4週 フィールド調査の準備1（グループ学習）
- 第5週 （5～7）フィールド調査1
- 第8週 調査結果まとめ・データ分析1
- 第9週 調査結果報告会1
- 第10週 フィールド調査の準備2（グループ学習）
- 第11～13週 フィールド調査2
- 第14週 調査結果まとめ・データ分析2
- 第15週 調査結果報告会2
- 第16週 総括

【履修上の注意事項】

この授業は、沖縄の自然環境及び社会環境に関する諸問題を学びながら、野外学習（フィールドワーク）を行う内容になっている。特に出席を重視するので注意すること。

【評価方法】

出席状況、授業への参加度、レポート等で総合的に判断する。

【テキスト】

必要に応じて資料を配付する。

【参考文献】

講義の中で適宜紹介する。

地域セミナー

担当教員 前半：小川 護、 後半：呉 錫畢

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業では、沖縄の自然環境及び社会環境に関する諸問題を検討する。授業は少人数ゼミ形式で行い、毎回、各自の発表テーマに沿いながら議論する。また、野外学習（フィールドワーク）を行いながら、「現場」において地域発展の視点から環境問題や基地問題などの実態を考察する。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	地域セミナー（前半）のガイダンス	17	地域セミナーに関するオリエンテーション
2	地域研究の基本1	18	地域とは何かについて発表（Ⅰ）
3	地域研究の基本2	19	地域とは何かについて発表（Ⅱ）
4	地域研究の基本3	20	北部地域の経済状況グループで発表
5	沖縄の地形を探る1	21	北部地域の環境問題についてグループで発表
6	沖縄の地形を探る2	22	北部地域の観光問題についてグループで発表
7	本島中南部における地形の巡検	23	北部地域の基地問題についてグループで発表
8	沖縄の農業1	24	北部地域の経済・環境・観光・基地
9	沖縄の農業2	25	沖縄経済振興における開発の功罪
10	沖縄農業の巡検	26	北部開発における赤土汚染の現状
11	沖縄の水資源について考える1	27	基地から見る辺野古経済を質す
12	沖縄の水資源について考える2	28	海洋博からみる沖縄経済と備瀬フクギ並木
13	沖縄の水資源についての巡検	29	国頭村安波から観光経済の未来を探る
14	みじかな地域についての調査報告	30	地域と経済に関するディベート1
15	みじかな地域についての調査報告	31	地域と経済に関するディベート2
16	前半まとめ		

【履修上の注意事項】

この授業は、沖縄の自然環境及人文・社会環境に関する諸問題を学びながら、野外学習（フィールドワーク）を行う内容になっている。特に出席を重視するので注意すること。

【評価方法】

出席状況、授業への参加度、レポート等で総合的に判断する。

【テキスト】

必要に応じて資料を配付する。

【参考文献】

講義の中で適宜紹介する。

地域セミナー

担当教員 前半：山川彩子、 後半：永田伊津子

対象学年 2年

開講時期 通年

単位区分 必

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

地域セミナーは、沖縄県の地域経済や自然環境について、実際にフィールド（現地）に行って体験学習することが目的である。本セミナーでは、前期と後期で教員が交代するオムニバス形式で、地域経済については永田が、自然環境については山川が担当する。本講義は事前に割り振られた2年次のみ登録許可する。その他の学生（3・4年次）は、登録前に面接を実施するので、研究室（9-505）に相談に来ることとする。

【授業の展開計画】

本セミナーは以下の2つからなる。

（1）沖縄の自然環境や生物（前期：山川担当）

沖縄島の成り立ち（地史）、地質や土壌、自然環境（植物）について学ぶ。実習地としては、浦添大公園やピオスの丘、読谷村宇座海岸等があげられる。巡検後、調べ学習し考察を加えレポートとしてまとめる。

- 第1週 ガイダンス
- 第2週 メールの書き方
- 第3～4週 事前学習
- 第5週 フィールドワーク（教員引率）
- 第6～7週 レポート作成
- 第8週 先輩との交流会
- 第8～9週 レポート作成
- 第10～14週 沖縄の危険生物・外来生物についての調べ発表
- 第15週 まとめ

（2）沖縄県の地域経済（後期：永田担当）

事前学習を元にグループでテーマを設定し、沖縄の地域経済を支える現場で聞き取り調査を行う。事前学習を元に聞きとり対象を決める。主に産業を担う企業を中心に現場の声を聞き、再度聞きとった情報を踏まえてより深く分析する。分析内容をまとめてプレゼンテーションを行う。

- 第1週 ガイダンス
- 第2～5週 事前学習
- 第6～8週 フィールドワーク
- 第9～11週 聞き取り調査の結果を元に分析
- 第12～14週 フィールドワーク
- 第15週 研究発表

【履修上の注意事項】

事前に割り振られた2年次のみ登録許可する。その他の学生（3・4年次）は、登録前に面接を実施するので、研究室（9-505）に相談に来ることとする。

【評価方法】

単位取得には、3分の2以上の出席、課題（レポート、レジメ）の提出が必須である。評価は、演習における発言の内容やレポートの内容により総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

講義中適宜紹介する。

地域セミナー

担当教員 前半：前泊 博盛、 後半：上江洲 薫

対象学年 2年

開講時期 通年

単位区分 必

授業形態

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

沖縄経済の振興・発展を担う経済インフラをフィールドワークを通して調査・研究します。

【授業の展開計画】

<前泊担当>

- 1：講義の概要説明
- 2：沖縄振興策の概況
- 3：架橋の経済効果
- 4：工業団地の経済効果
- 5：港湾の経済効果
- 6：空港の経済効果
- 7：道路の経済効果
- 8：教育施設・学校の経済効果
- 9：ダム・上水道の経済効果
- 10：下水道の経済効果
- 11：観光施設の経済効果
- 12：公民館・公共施設の経済効果
- 13～15：フィールドワーク
- 16：総括

【履修上の注意事項】

出席を重視します。

【評価方法】

出席とレポートによって評価します。

【テキスト】

随時指定します。

【参考文献】

「沖縄振興21世紀ビジョン」（沖縄県）など

地域セミナー

担当教員 前半：友知 政樹、 後半：砂川 かおり

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

キャンパス内での座学のみならず、キャンパス外でのフィールドワークを通して、「地域」を知り、感じ、考えることが「地域セミナー」のねらいである。

【授業の展開計画】

地域セミナーは少人数で展開する。

前期を友知、後期を砂川が担当する。

前期は、沖縄の自治・自己決定権や基地問題とその解決に関連付けたテーマのセミナーを行う。

後期は、自然資源としての「水」をテーマに、特に宜野湾市の水源の調査、水質分析、水の利用・保全について考えていく。

ゼミの詳細な内容や進め方については、第一回目のゼミの時間に説明する。

【履修上の注意事項】

事前に割り振られた2年次のみ登録を許可する。詳しくは、ゼミの際に説明する。毎回必ず出席すること。

【評価方法】

出席状況、議論への参加度、最終レポートなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

講義の際に詳しく説明する。

【参考文献】

講義の際に詳しく説明する。

地域セミナー

担当教員 前半：名城 敏、 後半：友知政樹

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 講義実技

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

地理情報システム論 I

担当教員 渡辺 康志

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は実際にGISソフトを操作し実習形式で地図作成や空間分析などの地理情報システムの基本概念を学ぶ講義である。GISソフト基本操作とデータ取り扱い方法を習得することを目的とし、地理情報システム (GIS) 基本概念, GISデータ表示方法, 基本的なデータ処理方法を演習形式で学習する。

【授業の展開計画】

- 第1回 オリエンテーション(講義計画、評価方法等の説明)
- 第2回 地理情報システム概要
- 第3回 GISソフト基本操作 (ソフト及びデータの基本操作法)
- 第4回 ベクトルデータ (ベクトルGISデータの特徴とその操作・表示法)
- 第5回 ラスターデータ (ラスターGISデータの特徴とその操作・表示法)
- 第6回 レイヤー管理 (GISデータのオーバーレイ)
- 第7回 主題図1 (ベクトルデータの個別値主題図の作成)
- 第8回 マップデータの利用法 (マップのレイアウト作成方と画像出力と印刷)
- 第9回 属性情報 (属性情報の操作方法及びインポート, 属性表の結合)
- 第10回 主題図2 (ベクトルデータの段階区分主題図の作成)
- 第11回 主題図3 (各種主題図作成と高度利用法)
- 第12回 GISデータの検索 (属性値によるベクトルデータの検索)
- 第13回 属性情報の編集 (属性フィールドの更新と検索データの保存)
- 第14回 期末レポート作成1 (GISデータの総合利用によるレポート作成)
- 第15回 期末レポート作成2 (GISデータの総合利用によるレポート作成, 提出)

【履修上の注意事項】

情報処理基礎等の情報関連単位を履修済みであること。特に本講義はGISソフトを操作しながら学ぶ形式であるため、毎回出席すること。コンピュータ・ソフトの台数に制約があるためその上限数を越える場合は抽選となる。GISデータを保管する4Gバイト以上のUSBメモリーを準備すること。

【評価方法】

実習形式の講義のため、毎講義時作成或いは処理したデータの提出を課す。また、期末試験としてGISデータを処理して作成するレポートを課す。成績は毎講義時の提出データ (60%) 及び期末レポートの内容 (40%) を総合して判断する。

【テキスト】

「GIS自習室」古今書院及び補完的にレジュメを配布する。

【参考文献】

“Geographic Information Systems and Science” JOHN WILEY & SONS, LTD/張長平著『空間データ分析』 古今書院/地理情報システム学会編『地理情報科学事典』 朝倉書店

地理情報システム論 II

担当教員 渡辺 康志

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義は地理情報システム論 I に引き続き、実際にGISソフトを操作し実習形式で地図作成や空間分析などの地理情報システムの基本概念を学ぶ講義である。GISソフト基本操作とデータ取り扱い方法を習得することを目的とし、地理情報システム (GIS) 基本概念、GISデータ表示方法、基本的なデータ処理方法を演習形式で学習する。

【授業の展開計画】

- 第1回 オリエンテーション(講義計画、GISソフト基本操作確認)
- 第2回 ラスターデータ作成1 (国土地理院地形図の利用法)
- 第3回 ラスターデータ利用法 (地図投影法設定とモザイク処理)
- 第4回 ラスターデータ作成2 (スキャン地形図、空中写真の多点ジオリファレンス)
- 第5回 ベクトルデータ作成法1 (ポイントデータの作成法)
- 第6回 ベクトルデータ作成法2 (ラインデータ・ポリゴンの作成法)
- 第7回 GPSデータ取得と利用法
- 第8回 測地系・座標系の変換 (緯度経度と平面直角座標系, 日本測地系と世界測地系)
- 第9回 空間検索1 (空間検索法とマップクリップ)
- 第10回 空間検索2 (バッファオブジェクト・ティーンポリゴンの作成と空間検索法)
- 第11回 空間操作3 (オーバーレイ検解析とオブジェクト変換)
- 第12回 ネットワークデータと分析法
- 第13回 データの3D表現と分析法
- 第14回 期末レポート作成1 (GISデータの総合利用によるレポート作成)
- 第15回 期末レポート作成2 (GISデータの総合利用によるレポート作成, 提出)

【履修上の注意事項】

地理情報システム論 I を修得済みであること。情報処理基礎等の情報関連単位を履修済みであること。特に本講義はGISソフトを操作しながら学ぶ形式であるため、毎回出席すること。コンピュータ・ソフトの台数に制約があるためその上限数を越える場合は抽選となる。GISデータを保管する4Gバイト以上のUSBメモリーを準備すること。

【評価方法】

実習形式の講義のため、毎講義時作成或いは処理したデータの提出を課す。また、期末試験としてGISデータを処理して作成するレポートを課す。成績は毎講義時の提出データ (60%) 及び期末レポートの内容 (40%) を総合して判断する。

【テキスト】

「GIS自習室」古今書院及び補完的にレジュメを配布する。

【参考文献】

“Geographic Information Systems and Science” JOHN WILEY & SONS, LTD/張長平著『空間データ分析』 古今書院/地理情報システム学会編『地理情報科学事典』 朝倉書店

統計情報処理 I

担当教員 友知 政樹

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、回帰分析を基軸に基礎的な多変量解析法について学ぶことを目的とする。具体的には、多変量解析法の理論を理解すると同時に、実際のデータをエクセルなどの統計ソフトを利用しながら統計処理し、その方法ならびに結果の解釈について学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	基本統計量とエクセル (1)
3	基本統計量とエクセル (2)
4	基本統計量とエクセル (3)
5	相関分析 (1)
6	相関分析 (2)
7	単回帰分析 (1)
8	単回帰分析 (2)
9	重回帰分析 (1)
10	重回帰分析 (2)
11	回帰モデルの仮説検定と予測 (1)
12	回帰モデルの仮説検定と予測 (2)
13	ダミー変数 (1)
14	ダミー変数 (2)
15	最終試験
16	

【履修上の注意事項】

統計情報処理 I・II の両方を履修することが望ましい。
 予め、環境統計学 I・II もしくは統計学 I・II を履修している方が望ましい。

【評価方法】

出席状況、レポート、試験などにより総合的に評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献】

参考文献は講義時に紹介する。

統計情報処理Ⅱ

担当教員 友知 政樹

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、回帰分析の習得を前提に、多変量解析法について発展的に学ぶことを目的とする。具体的には、多変量解析法の理論を理解すると同時に、実際のデータをエクセルなどの統計ソフトを利用しながら統計処理し、その方法ならびに結果の解釈について学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	回帰分析の復習（1）
3	回帰分析の復習（2）
4	回帰分析の復習（3）
5	時系列重回帰分析（1）
6	時系列重回帰分析（2）
7	主成分分析（1）
8	主成分分析（2）
9	主成分分析（3）
10	コンジョイント分析（1）
11	コンジョイント分析（1）
12	コンジョイント分析（2）
13	コンジョイント分析（3）
14	総まとめ
15	最終試験
16	

【履修上の注意事項】

統計情報処理Ⅰ・Ⅱの両方を履修することが望ましい。
 予め、環境統計学Ⅰ・Ⅱもしくは統計学Ⅰ・Ⅱを履修している方が望ましい。

【評価方法】

出席状況、レポート、試験などにより総合的に評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献】

参考文献は講義時に紹介する。

島嶼環境論

担当教員 名城 敏

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

沖縄のような海洋性を有する亜熱帯の島嶼の生態系は、いくつかの要素が互いに複雑に関わり合いながら成り立っている。それは、微妙なバランスの上に成り立っているため脆弱性をも有する。

本講では、島の自然環境および生態系等について学びながら島が抱えてきた諸課題と新たな課題等についてどのように対応すべきか、対応できるのか共に考えたい。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

しばしば、予告なしの試験を実施する場合がありますので注意を要する。試験問題は、講義内容に基づいて、論述形式で出題する。

【評価方法】

評価は試験の結果にもとづき行う。

【テキスト】

未定

【参考文献】

講義の中でその都度紹介する。

島嶼経済論

担当教員 前泊 博盛

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

島に住むことを考えたことがありますか？沖縄県は島嶼県といわれます。大小160余の島々から成り立っています。しかし、その中で有人島は49島、その他は無人島です。人が住む島と住めない島、住まない島の違いは何ですか？ある一定の規模の人が島に住むためには経済活動が不可欠です。島嶼経済論は、そんな島々の経済活動の実態と課題、可能性を講義します。島嶼ならではの経済的制約、発展可能性、島嶼県・沖縄の経済的特徴についてアジア太平洋諸国の島嶼国家・地域（ハワイ、シンガポール、香港、台湾、フィリピン）や島嶼経済圏（ハワイ群島）なども事例にとりあげながら島嶼経済の比較検証を通して島嶼経済の多様性を学びます。

【授業の展開計画】

- 【1】講義の狙い（島嶼とは）
- 【2】島嶼県沖縄の特徴と課題（島嶼に住むための条件）
- 【3】離島架橋の経済学（池間島・来間島）
- 【4】沖縄の離島振興－新沖縄県離島振興計画の検証①
- 【5】沖縄の離島振興－新沖縄県離島振興計画の検証②
- 【6】沖縄の離島振興－新沖縄県離島振興計画の検証③離島と観光経済
- 【7】沖縄の離島振興－新沖縄県離島振興計画の検証④離島と農林水産業
- 【8】沖縄の離島振興－新沖縄県離島振興計画の検証⑤離島と公共事業（建設業）
- 【9】沖縄の離島振興－新沖縄県離島振興計画の検証⑥離島の産業振興政策
- 【10】島嶼地域研究：ハワイ経済の概況
- 【11】島嶼地域研究：香港経済の概況
- 【12】島嶼地域研究：シンガポール経済の概況
- 【13】島嶼地域研究：フィリピン経済の概況
- 【14】島嶼地域研究：台湾経済の概況と経済政策（台湾島）
- 【15】島嶼型経済の総括
- 【16】後期試験

【履修上の注意事項】

出席を重視します。

【評価方法】

課題（レポート）の提出、出席状況で総合的に評価を行う。

【テキスト】

「沖縄県における今後の離島振興策に関する調査報告書」（沖縄振興総合調査、2011年3月）「新沖縄県離島振興計画」（沖縄県）ほか

【参考文献】

百瀬恵夫・前泊博盛著「検証 沖縄問題」（東洋経済新報社）
西川潤ほか編著「島嶼沖縄の内発的発展」（藤原書店）

都市環境論

担当教員 上江洲 薫

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、都市において発生する環境問題を概観する。このような環境問題には、水環境、大気環境、エネルギー、廃棄物などの問題が含まれる。講義では、これらの問題を個別に取り上げるだけでなく、問題相互の関連性を検討し、都市環境のマネジメントを考える。なお、水曜日の午後に1回だけ野外実習を行う予定。

【授業の展開計画】

1. 講義説明
2. 都市と水環境①－都市の水収支
3. 都市と水環境②－水の供給と保全
4. 都市の大気環境と熱環境①－大気汚染の変遷と特徴
5. 都市の大気環境と熱環境②－大気汚染物質とその対策 1
6. 都市の大気環境と熱環境③－大気汚染物質とその対策 2
7. 都市の大気環境と熱環境④－ヒートアイランド現象の特徴
8. 都市の大気環境と熱環境⑤－ヒートアイランド現象の対策
9. 都市のエネルギー消費と二酸化炭素の排出①－日本の都市
10. 都市のエネルギー消費と二酸化炭素の排出②－二酸化炭素の削減対策
11. 都市のエネルギー消費と二酸化炭素の排出③－都市への集中と交通
12. 都市の省エネと環境保全①都市レベルの対策：日本
13. 都市の省エネと環境保全②都市レベルの対策：海外
14. 産業界の環境保全対策：コージェネレーション
15. 物質の循環と廃棄物－廃棄物の問題と活用
16. 試験

【履修上の注意事項】

途中退席や私語を繰り返す受講生は大きな減点とする。初回の講義から出席を取る。

【評価方法】

成績評価は出席・講義への参加姿勢(30点)や試験(40点)、講義内容に関する感想や作業物の提出(30点)で判断する。

【テキスト】

テキストは使用しない。配付資料を使用する。

【参考文献】

花木啓祐『都市環境論』（岩波書店）、福岡義隆・本条毅『都市の風水土 都市環境学入門』（朝倉書店）、都市環境学教材編集委員会編『都市環境学』（森北出版）

土壌学概論

担当教員 名城 敏

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

土壌学の分野において、土壌を自然体としてみなし、その生成や分類に関する分野をペドロジー (pedology)、農業や環境に結び付いた分野をエダホロジー (edaphology) とそれぞれ呼んでいる。土壌科学 (soil science) は両方を内包している。本講の内容は土壌科学とし、土壌学の基礎知識に加え、沖縄県に分布する土壌 (ジャーガル、島尻マージおよび国頭マージ等) の特性と環境問題 (土壌侵食や赤土等の海域流入等) との関わりについても論じていきたい。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

しばしば、予告なしの試験を実施する場合がありますので注意を要する。試験問題は、講義内容に基づいて、論述形式で出題する。

【評価方法】

評価は試験の結果にもとづき行う。

【テキスト】

未定

【参考文献】

講義の中でその都度紹介する。

農業と環境

担当教員 名城 敏

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

農業と経済

担当教員 藤原 昌樹

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

農業と食料をめぐる経済的現象を解明する学問である農業経済学の基本的な理論を学ぶことを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	農業経済学のミクロ経済学的基礎
2	農業経済学のミクロ経済学的基礎
3	経済発展と農業
4	経済発展と農業
5	食料の需要と供給
6	食料の需要と供給
7	農産物貿易と農業保護政策
8	農産物貿易と農業保護政策
9	農産物貿易と農業保護政策
10	世界の人口と食料
11	世界の人口と食料
12	資源・環境と農業
13	資源・環境と農業
14	日本及び沖縄の農業
15	日本及び沖縄の農業
16	試験

【履修上の注意事項】

【評価方法】

講義終了時に論述式の試験を行う。農業経済学の基本的な概念・理論を理解しているか否かを合否の判定基準とする。

【テキスト】

講義はレジュメを用いて行ない、特にテキストの指定はしない。

【参考文献】

荏開津典生『農業経済学 第3版』岩波書店 2008年
 時子山ひろみ・荏開津典生『フードシステムの経済学 第4版』医歯薬出版株式会社 2008年
 原洋之介『北の大地・南の列島の「農」』書籍工房早山 2007年

廃棄物論

担当教員 一玉栄 章宏

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、日本における廃棄物に関する歴史、現状、循環利用の現状、海外における廃棄物問題、沖縄における廃棄物の現状と廃棄物事業（静脈産業）の順に学んでいく。講義を通して日本および世界、沖縄の廃棄物の概要を理解できるようにする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス、沖縄の一般廃棄物の概要、DVD（エコドライブ）
2	日本における廃棄物処理の歴史（1）
3	日本における廃棄物処理の歴史（2）
4	日本の物質フロー
5	廃棄物とは（一般廃棄物と産業廃棄物）
6	循環的な利用の現状（1）（法制度と3R政策）・DVD（資源有効利用促進法）
7	循環的な利用の現状（2）（バーゼル条約・バーゼル法、廃棄物処理法）
8	循環的な利用の現状（3）（容器包装リサイクル法、家電・自動車リサイクル法）
9	循環的な利用の現状（4）（建設・食品リサイクル法、グリーン購入法）
10	廃棄物関連情報（最終処分場・不法投棄）
11	廃棄物関連情報（1）（ダイオキシン等 DVD なぜゴミを燃やしてはいけないの？19分）
12	廃棄物関連情報（2）（アスベスト等 DVD 健康被害と保障33分）
13	廃棄物関連情報（3）（越境移動、DVD 危害の輸出23分）
14	廃棄物関連情報（4）（海洋漂流廃棄物、人口の海10分orゴミ箱になった海15分）
15	沖縄における廃棄物の現状と廃棄物事業（静脈産業）
16	期末試験（追試は無し）

【履修上の注意事項】

単位を落とした場合、最終年次においても2013年9月の再試験は実施しない
→ 卒業が危うい4年生は登録しないこと

【評価方法】

- ・出席状況（記名式）、期末試験等により総合的に評価する。
- ・登録調整期間の出席状況も評価に反映する。
- ・欠席日から2週間以上過ぎた欠席届は受け取らないので注意する。

【テキスト】

- ・3分の1以上の欠席（欠席理由は考慮しない）。
- ・出席で代筆が明らかとなった場合、期末試験を受けなかった場合、試験で不正をした場合。

【参考文献】

テキストは指定しない。各種配布資料、DVD資料など。

ファイナンシャルプランニング

担当教員 安藤 由美

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

ファイナンシャル・プランナー（FP）の仕事は、顧客の人生設計に基づいて総合的な資産設計をプランニングし、提案することです。金融機関で仕事する上で、FP知識は不可欠です。また自分の将来設計をする上で重要な知識を、学生の段階で理解しておくことは有益です。授業では、学科試験の領域を整理しながら学習する。

【授業の展開計画】

- 1 講義の概要・計画
- 2 ライフプランニングと資金計画（1）
- 3 ライフプランニングと資金計画（2）
- 4 リスク管理（1）
- 5 リスク管理（2）
- 6 金融資産運用（1）
- 7 金融資産運用（2）
- 8 中間テスト1
- 9 タックスプランニング（1）
- 10 タックスプランニング（2）
- 11 不動産（1）
- 12 不動産（2）
- 13 相続・事業承継（1）
- 14 相続・事業承継（2）
- 15 中間テスト2
- 16 期末試験

【履修上の注意事項】

電卓を持参すること。
前回講義の確認として小テストを実施する。

【評価方法】

中間テスト（2回）、期末テスト、小テストに基づき評価する。

【テキスト】

フィナンシャルバンクインスティテュート編『わかる!FP技能士3級最速テキスト〈2012-2013年版〉』 日本経済新聞出版社 2012年

【参考文献】

フィナンシャルバンクインスティテュート編『わかる!FP技能士3級最速問題集〈2012-2013年版〉』 日本経済新聞出版社 2012年

ファイナンシャル・プランニング I

担当教員 安藤 由美

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

ファイナンシャル・プランナー（FP）の仕事は、顧客の人生設計に基づいて総合的な資産設計をプランニングし、提案することです。金融機関で仕事する上で、FP知識は不可欠です。また自分の将来設計をする上で重要な知識を、学生の段階で理解しておくことは有益です。

授業では、「学科試験」の領域を整理しながら学習する。

【授業の展開計画】

- 1 講義の概要・計画
- 2 ライフプランニングと資金計画（1）
- 3 ライフプランニングと資金計画（2）
- 4 リスク管理（1）
- 5 リスク管理（2）
- 6 金融資産運用（1）
- 7 金融資産運用（2）
- 8 中間テスト1
- 9 タックスプランニング（1）
- 10 タックスプランニング（2）
- 11 不動産（1）
- 12 不動産（2）
- 13 相続・事業承継（1）
- 14 相続・事業承継（2）
- 15 中間テスト2
- 16 期末試験

【履修上の注意事項】

電卓を持参すること。
前回講義の確認として小テストを実施する。

【評価方法】

中間テスト（2回）、期末テスト、小テストに基づき評価する。

【テキスト】

フィナンシャルバンクインスティテュート編『わかる!FP技能士3級最速テキスト〈2012-2013年版〉』日本経済新聞出版社 2012年

【参考文献】

フィナンシャルバンクインスティテュート編『わかる!FP技能士3級最速問題集〈2012-2013年版〉』日本経済新聞出版社 2012年

ファイナンシャル・プランニングⅡ

担当教員 安藤 由美

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

ファイナンシャル・プランナー（FP）の仕事は、顧客の人生設計に基づいて総合的な資産設計をプランニングし、提案することです。金融機関で仕事する上で、FP知識は不可欠です。また自分の将来設計をする上で重要な知識を、学生の段階で理解しておくことは有益です。

授業では、「実技試験」の領域を整理しながら学習する。

【授業の展開計画】

- 1 講義の概要・計画
- 2 ライフプランニングと資金計画（1）
- 3 ライフプランニングと資金計画（2）
- 4 リスク管理（1）
- 5 リスク管理（2）
- 6 金融資産運用（1）
- 7 金融資産運用（2）
- 8 中間テスト1
- 9 タックスプランニング（1）
- 10 タックスプランニング（2）
- 11 不動産（1）
- 12 不動産（2）
- 13 相続・事業承継（1）
- 14 相続・事業承継（2）
- 15 中間テスト2
- 16 期末試験

【履修上の注意事項】

「ファイナンシャル・プランニングⅠ」の履修・学習を前提として授業を行う。

電卓を持参すること。

前回講義の確認として小テストを実施する。

【評価方法】

中間テスト（2回）、期末テスト、小テストに基づき評価する。

【テキスト】

ファイナンシャルバンクインスティテュート編『わかる!FP技能士3級最速テキスト〈2012-2013年版〉』日本経済新聞出版社 2012年

【参考文献】

ファイナンシャルバンクインスティテュート編『わかる!FP技能士3級最速問題集〈2012-2013年版〉』日本経済新聞出版社 2012年

不動産評価論

担当教員 玉那覇 兼雄

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「不動産鑑定評価基準」の解説を中心に、不動産と人、そして街づくりとの関わりについて、理論と実践を学習します。

不動産に興味を持っている方、特に、将来、不動産鑑定士の国家試験を目指す方、金融機関や不動産会社への就職を希望される方、フィナンシャルプランナー、宅地建物取引主任者等の資格取得を目指す方が受講されることを勧めます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	プロローグ用語の定義、鑑定評価制度
2	不動産の鑑定評価に関する基本的考察
3	不動産の種別及び類型、不動産の価格を形成する要因
4	不動産の価格に関する諸原則 (1)
5	不動産の価格に関する諸原則 (2)
6	鑑定評価の基本的事項
7	地域分析及び個別分析
8	鑑定評価の方式 (1) 取引事例比較法、原価法
9	鑑定評価の方式 (2) 収益還元法
10	鑑定評価の方式 (3) 賃料の評価手法
11	鑑定評価の手順 (1)
12	鑑定評価の手順 (2)
13	鑑定評価報告書、2～4回目のまとめ
14	各論－土地の鑑定評価
15	各論－建物及びその敷地の鑑定評価
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

特になし。

【評価方法】

出席を重視し、最終試験により評価します。

【テキスト】

不動産鑑定評価基準

【参考文献】

鑑定評価理論研究会編著 「要説 不動産鑑定評価基準」 (住宅新報社)

プログラミング演習

担当教員 上原 和樹

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

情報が氾濫する現在において、膨大な情報資源の中から必要な情報を的確に収集し、それを活用する能力が求められている。本講義では、情報リテラシー演習で学んだ基礎知識に続き、データ分析に必要な表計算ソフトウェアのプログラミングについて学習するとともに、収集したデータの見せ方、画像処理の方法、さらに、情報提供の場としてのWebページ制作およびJavaScriptに関して主に学習する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス・コンピュータ情報リテラシーの基本
2	表計算ソフトウェアの復習
3	表計算ソフトウェアの応用 (1)
4	表計算ソフトウェアの応用 (2)
5	表計算ソフトウェアの応用 (3)
6	表計算ソフトウェアの応用 (4)
7	表計算ソフトウェアの応用 (5)
8	表計算ソフトウェアの応用 (6)
9	Webページ制作 (1)
10	Webページ制作 (2)
11	JavaScriptの基本 (1)
12	JavaScriptの基本 (2)
13	JavaScriptの基本 (3)
14	インターネットによる情報検索・画像データ処理 (1)
15	インターネットによる情報検索・画像データ処理 (2)
16	期末試験

【履修上の注意事項】

地域環境政策学科・1年次以上対象科目。講義は段階的に進めるので、講義内容を理解してもらうためにも出席を重視する。現4年次の必修科目であるため4年次優先。空きがあれば、他年次の学生の登録も可能とする。

【評価方法】

出席状況、課題内容、試験により総合的に評価する。

【テキスト】

講義中にレジメを配布する。

【参考文献】

開講時に紹介する。

簿記原理 I

担当教員 井口 千秋

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

簿記は経済社会において有用な道具として広く利用されています。例えば、大企業では、一日に何億もの資金を動かしています。この膨大な取引を整理しているのが簿記であります。また、一方では、小さな商店や個人事業であっても簿記を利用して取引を整理しています。簿記はこのような企業の取引を記録し、「財務諸表」という報告書にまとめる技術です。このように現在社会において欠かせない簿記について本講義では基礎的な技法の習得とともに、特徴の理解を深めていただきます。

【授業の展開計画】

- 第1章 簿記の基礎
- 第2章 現金及び小口現金
- 第3章 当座預金勘定
- 第4章 商品売買取引
- 第5章 手形
- 第6章 その他の債権債務
- 第7章 貸倒引当金
- 第8章 有価証券
- 第9章 固定資産

【履修上の注意事項】

- (ア) 電卓、赤ペン、定規持参。(イ) 各回の授業は相互に関連して一体となっています。欠席すると全体像がつかめなくなりますので、万一欠席した場合は、必ずその部分を自分自身で補う必要があります。
- (ウ) 大学で初めて簿記を学ぶ者を中心とし、簿記の基本について講義します。
- (エ) 簿記検定試験の受験などで成果の確認を行うことをお勧めします。
- (オ) 後期の「簿記原理Ⅱ」、「環境会計」の礎とします。

【評価方法】

- ランダムな出席確認=20点
- 定期試験結果=60点
- レポート=20点

【テキスト】

- (ア) スッキリわかる 日商簿記3級

【参考文献】

簿記原理Ⅱ

担当教員 井口 千秋

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

簿記は経済社会において有用な道具として広く利用されています。例えば、大企業では、一日に何億もの資金を動かしています。この膨大な取引を整理しているのが簿記であります。また、一方では、小さな商店や個人事業であっても簿記を利用して取引を整理しています。簿記はこのような企業の取引を記録し、「財務諸表」という報告書にまとめる技術です。このように現在社会において欠かせない簿記について本講義では、簿記原理Ⅰで学習したことを踏まえながら、技術の習得とともに、特徴の理解を深めていただきます。

【授業の展開計画】

- 第10章 費用・収益の見越・繰延
- 第11章 消耗品（消耗品費）の処理
- 第12章 資本金と引出金
- 第13章 伝票会計
- 第14章 試算表
- 第15章 精算表
- 第16章 帳簿の締切り及び振替

【履修上の注意事項】

- (ア) 電卓、赤ペン、定規持参。(イ) 各回の授業は相互に関連して一体となっています。欠席すると全体像がつかめなくなりますので、万一欠席した場合は、必ずその部分を自分自身で補う必要があります。
- (ウ) 「簿記原理Ⅰ」を学習したものの者を中心とし、簿記の基本について講義します。
- (エ) 簿記検定試験の受験などで成果の確認を行うことをお勧めします。
- (オ) 「環境会計」の礎とします。

【評価方法】

- ランダムな出席確認＝20点
- 定期試験結果＝60点
- レポート＝20点

【テキスト】

- (ア) スッキリわかる 日商簿記3級

【参考文献】

マクロ経済学 I

担当教員 渡久地 朝央

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

マクロ経済学は国単位での経済活動について論じる経済学の基礎科目の1つです。財政学や公共経済学、金融論など様々な分野に共通する基礎理論でもあり、現実の経済を理解する上でも必要な科目になります。

授業ではマクロ経済学の基礎的な考えや分析方法を出来るだけ簡易に解説していきます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	マクロ経済学の考え方
2	経済指標の見方－GDPとGDE
3	経済指標の見方－物価指数
4	国民所得の考え方－45度線モデル
5	消費と貯蓄－消費関数
6	消費と貯蓄－貯蓄関数
7	投資行動と投資関数
8	政府支出と政府の役割
9	貨幣市場と貨幣需要
10	貨幣市場と投資
11	貨幣市場と証券市場
12	IS-LM分析の基礎
13	IS-LM分析と財政政策
14	IS-LM分析と金融政策
15	IS-LM分析の応用
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

中間試験，期末試験をもって評価を行う。

【テキスト】

【参考文献】

マンキュー 『マクロ経済学 I』
辻正次，田岡文夫，吉本佳生 『演習マクロ経済学』

マクロ経済学Ⅱ

担当教員 渡久地 朝央

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

マクロ経済学は国単位での経済活動について論じる経済学の基礎科目の1つです。財政学や公共経済学、金融論など様々な分野に共通する基礎理論でもあり、現実の経済を理解する上でも必要な科目になります。

授業ではマクロ経済学の基礎的な考えや分析方法を出来るだけ簡易に解説していきます。

本授業はマクロ経済学Ⅰ（前期）の続きになります。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	物価の考え方ー物価の変化
2	物価の考え方ー失業率
3	AD-ASモデルの基礎
4	AD-ASモデルの事例
5	インフレと失業
6	フィリップス曲線の考え方
7	国際マクロと為替ー為替の基礎知識
8	国際マクロと為替ーワルラスの法則
9	マンデル・フレミングモデルの基礎
10	マンデル・フレミングモデルの事例
11	ポリシー・ミックス
12	二国モデルと政策協調
13	マクロ・ダイナミクスーコブ・ダグラスモデル
14	マクロ・ダイナミクスーソローモデル
15	マクロ・ダイナミクスー重複世代モデル
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

中間試験，期末試験をもって評価を行う。

【テキスト】

【参考文献】

マンキュー 『マクロ経済学Ⅰ』
辻正次，田岡文夫，吉本佳生 『演習マクロ経済学』

ミクロ経済学 I

担当教員 呉 錫畢

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人々は、モノを買う、また生産して売る、つまり経済活動なしには生活ができない。しかし、このようなモノには資源が必要である。ところが、資源には限りがあり、人間の欲望には限りがない。そのためにどのような資源をいかに配分・生産し、その生産物をどのように分配するかという問題に対処しなければならない。これらの課題を分析対象とするのがミクロ経済学である。本講義では経済学における基本的諸概念の正確な理解を目指す。しかし、単なる経済用語の定義の学習に留まらず、理論的把握を心がける。また、居酒屋で生ビールとつまみをどう組合せば最も満足できる選択になるか、学問的に考察する。

【授業の展開計画】

- 1週目：ミクロ経済学と経済生活
- 2週目：資源とは？、その希少性とは？
- 3週目：財とは何か？
- 4週目：価格とは何か？
- 5週目：時間と財の関係
- 6週目：リスクと財の関係
- 7週目：オークションとそのしくみ
- 8週目：市場の失敗と市場の構築
- 9週目：需要の価格弾力性
- 10週目：諸費者余剰
- 11週目：複数財の選択と無差別曲線
- 12週目：消費者の最適選択
- 13週目：所得の変化と需要の変化
- 14週目：代替効果と所得効果
- 15週目：貯蓄の決定
- 16週目：期末試験

【履修上の注意事項】

講義を聴いている人に迷惑をかけること。

【評価方法】

期末試験、レポート、出欠等を参照

【テキスト】

佐々木宏夫（2011）『図解ミクロ経済学入門』、ナツメ社。

【参考文献】

- (1) 石川秀樹（2007）『新経済学入門塾Ⅱミクロ編』、中央経済社。
- (2) ジョセフ・スティグリッツ（1995）『ミクロ経済学』、東洋経済新報社。

ミクロ経済学Ⅱ

担当教員 呉 錫畢

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人々は、モノを買う、また生産して売る、つまり経済活動なしには生活ができない。しかし、このようなモノには資源が必要である。ところが、資源には限りがあり、人間の欲望には限りがない。そのためにどのような資源をいかに配分・生産し、その生産物をどのように分配するかという問題に対処しなければならない。これらの課題を分析対象とするのがミクロ経済学である。本講義では経済学における基本的諸概念の正確な理解を目指す。しかし、単なる経済用語の定義の学習に留まらず、理論的把握を心がける。また、学園祭から企業の理論を探り、学問的に考察する。

【授業の展開計画】

- 1週目：企業の行動と供給曲線
- 2週目：供給の価格弾力性
- 3週目：企業の販売意欲
- 4週目：生産者余剰
- 5週目：生産とは何か？
- 6週目：費用最小化
- 7週目：短期と長期
- 8週目：限界費用と限界費用曲線
- 9週目：平均費用と平均可変費用
- 10週目：短期供給曲線
- 11週目：長期供給曲線
- 12週目：市場均衡とその望ましさ
- 13週目：市場の失敗
- 14週目：外部効果の問題点
- 15週目：外部効果の解決方法
- 16週目：期末試験

【履修上の注意事項】

講義を聴いている人に迷惑をかけること。

【評価方法】

期末試験、レポート、出欠等を参照

【テキスト】

佐々木宏夫（2011）『図解ミクロ経済学入門』、ナツメ社。

【参考文献】

- (1) 石川秀樹（2007）『新経済学入門Ⅱミクロ編』、中央経済社。
- (2) ジョセフ・スティグリッツ（1995）『ミクロ経済学』、東洋経済新報社。